



文部科学省 情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業

分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク

2015年度企業向け調査結果

2016年3月

本調査にご協力をいただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

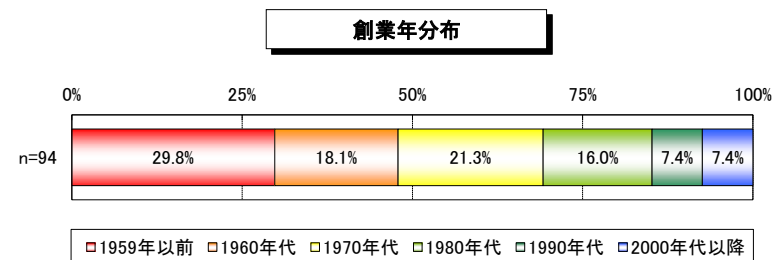
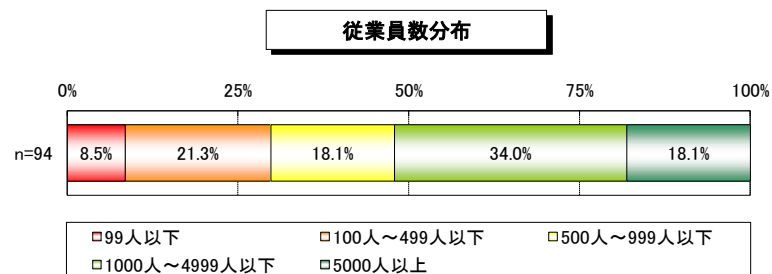
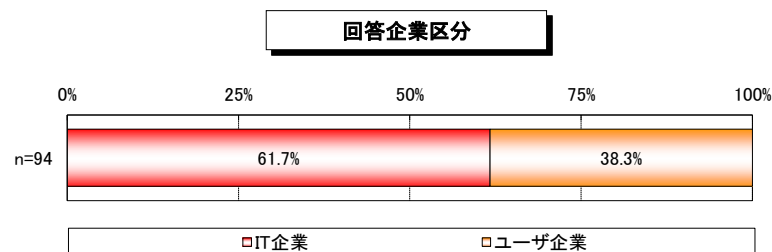


Education Network for Practical Information Technologies

2015年度企業向けアンケート調査の概要

本調査では、enPiT修了生の受け入れ先となる可能性があるITベンダーもしくはユーザー企業の人事部門・新卒採用部門に対してアンケートを実施し、情報系出身者に対する評価のほか、enPiTの認知度やenPiTの教育内容に対する印象等を尋ねた。

対象者条件	enPiT修了生の受入先となる可能性のある企業（ITベンダー企業及びユーザー企業） 1,000社
調査方法	書面で送付する郵送アンケート
調査期間	2016年1月25日（月）～2016年2月5日（金）
回収率	回収数94件（回収率 9.4%）
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 新卒採用時に重視する点 情報系専攻者に対する期待 情報系大学院での実践教育に対する関心 enPiTの認知度／認知経路 enPiTの教育内容等に対する印象・意見 enPiT修了生の採用についての興味 enPiTに対する期待や要望

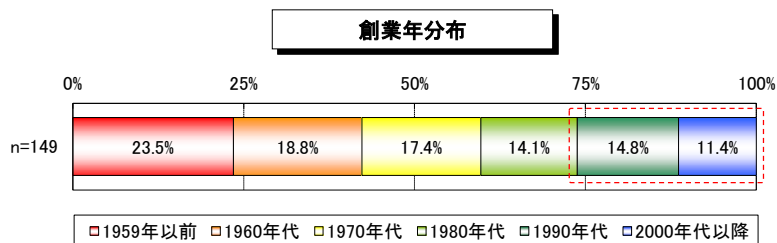
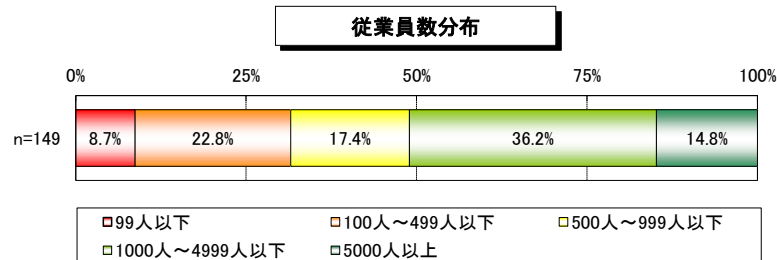
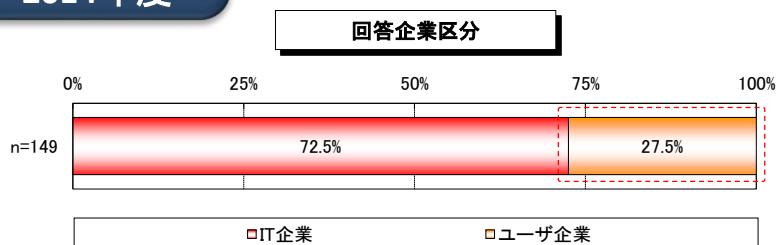


※ 本調査では業務の一部を、みずほ情報総研株式会社に委託の上実施した。

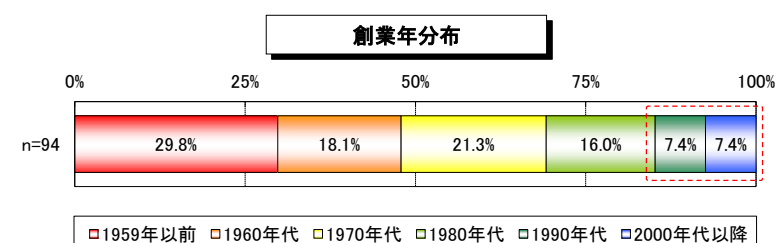
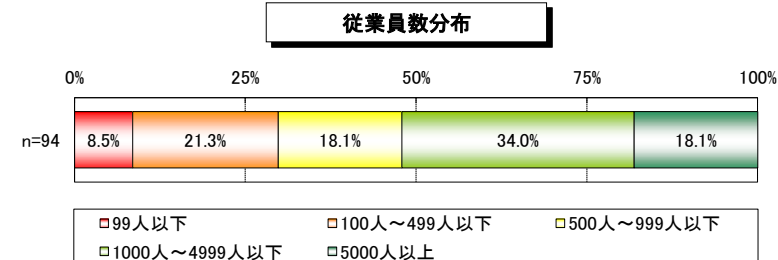
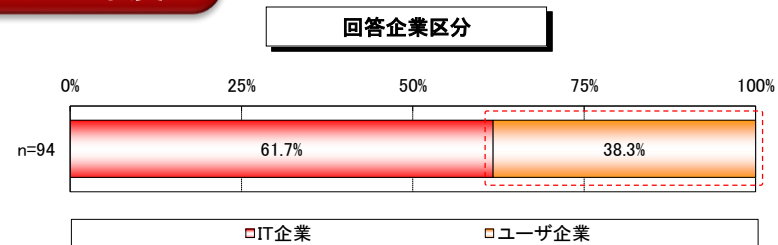
（参考）2014年度回答企業との比較

本調査は、昨年度（2014年度）も実施しているため、回答結果の分析においては、2014年度との結果の比較も行っている。参考までに、2014年度の回答企業との属性の比較を以下に示す。今年度のほうが、ユーザー企業の割合がやや高くなっている。

2014年度



2015年度



■ 2015年企業向けアンケート調査結果のポイント

<今年度調査テーマ> enPiTは企業に浸透しているか？

POINT1

enPiT認知度は
昨年度からさらに上昇し4割へ



p.22
p.23

enPiTの認知度は、昨年度と比べて約15%も上昇し、約4割の企業が認知。今年度は回答企業にユーザー企業の割合が増えていることを考慮すると、実質的にも大きな上昇といえる。

POINT3

enPiTの認知度上昇に
パンフレットが大きく貢献



p.22
p.24

enPiTの認知経路として、「パンフレット等を見たことがある」という回答が3割近くも上昇。アンケート等に同封したenPiTパンフレットによるPRが成果を挙げたと考えられる。

POINT4

回答企業の半数が
enPiTへの参加に関心を有する



p.31
p.32

今年度は、enPiTへの参加(講師派遣等)に対する企業の関心を尋ねたところ、約半数の企業から「ある程度の関心がある」との回答が得られた。

POINT5

今後企業が重視する分野は、
IoT/M2M、ビッグデータ、
情報セキュリティ、クラウド

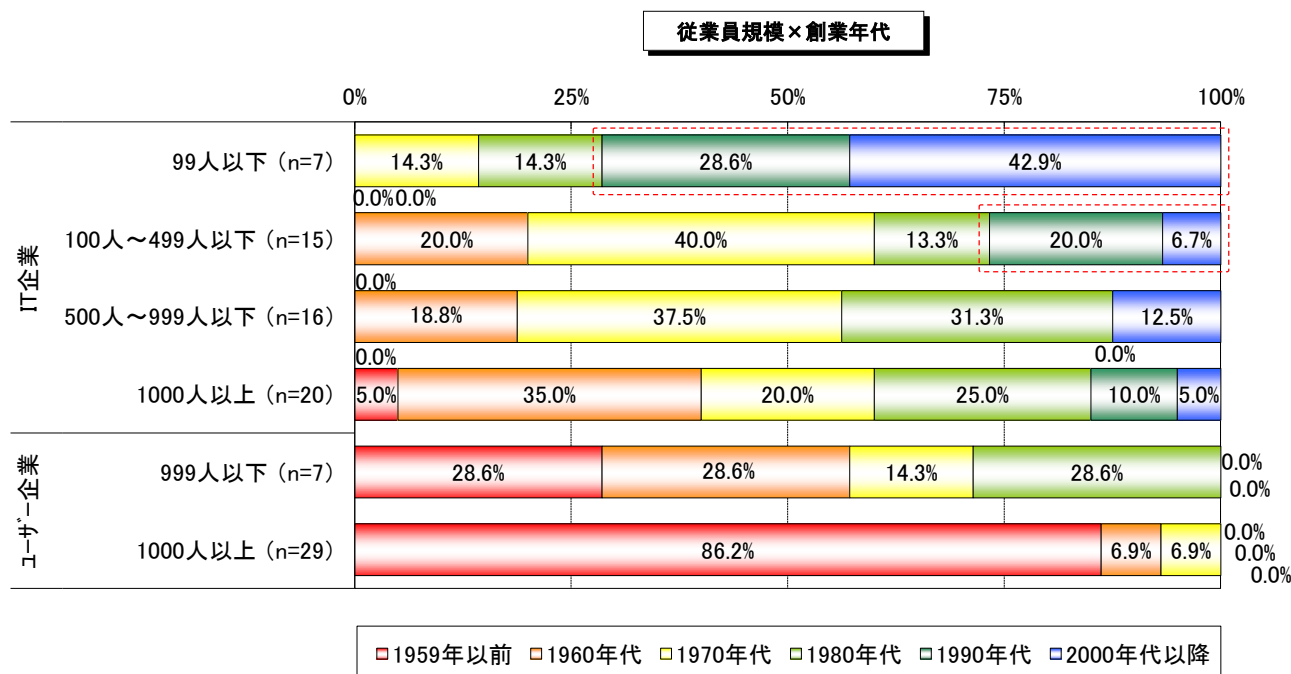


p.20
p.21

企業にとって重要となるIT関連技術を尋ねたところ、IoT/M2M、ビッグデータ、情報セキュリティ、クラウドコンピューティング、モバイルが上位5項目となった。

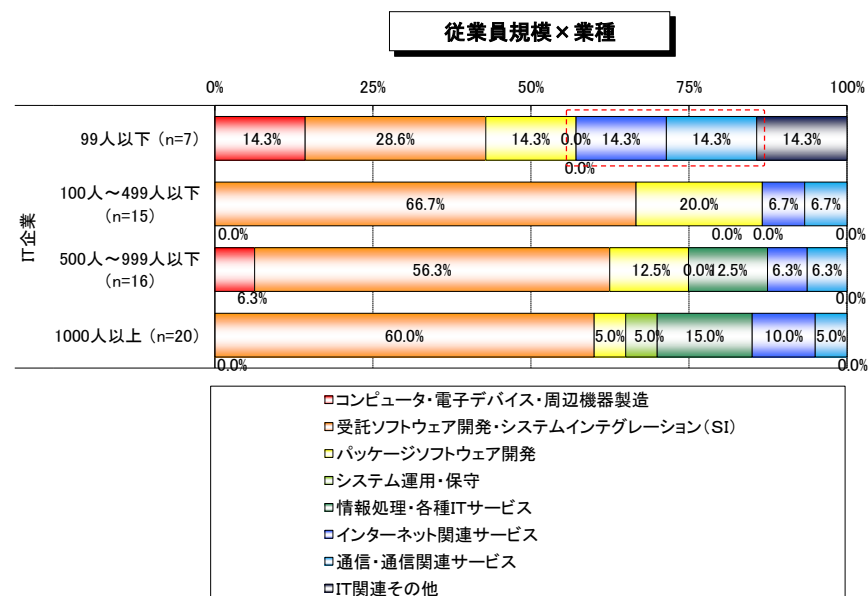
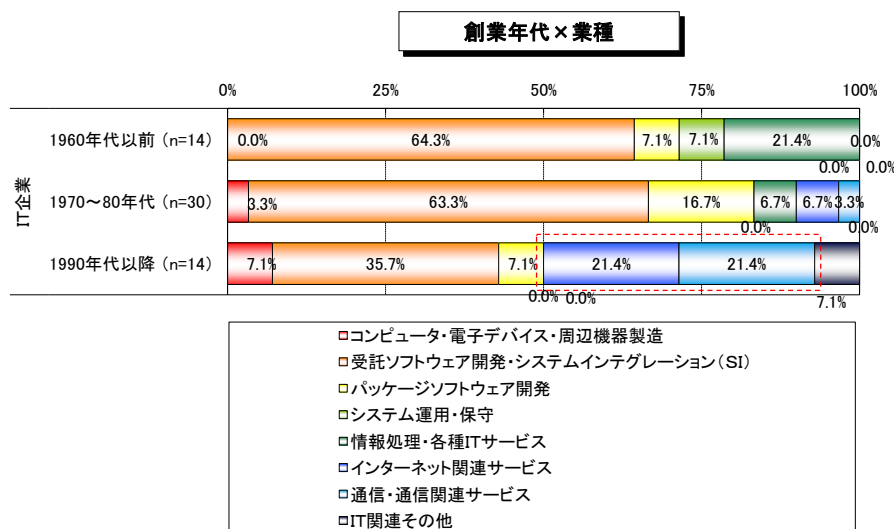
■ アンケート回答企業の属性①

- 本調査の回答結果の分析においては、回答企業を「IT企業」及び「ユーザー企業」に区分しているほか、下図のとおり、それぞれの企業をさらに「従業員規模別」及び「創業年代別」に区分している。
- 特に「IT企業」をみると、下図のとおり、**従業員規模の小さい企業には、1990年代以降に創業された新しい企業(ITベンチャー等)が多く**、「99人以下の企業」では、全体の約7割が1990年代以降に創業された企業となっている。「100人～499人以下」の企業では、3割程度が1990年代以降に創業された新しい企業である。
- 「ユーザー企業」は、全体的に1960年代以前に創業された伝統ある企業が多い。



■ アンケート回答企業の属性②

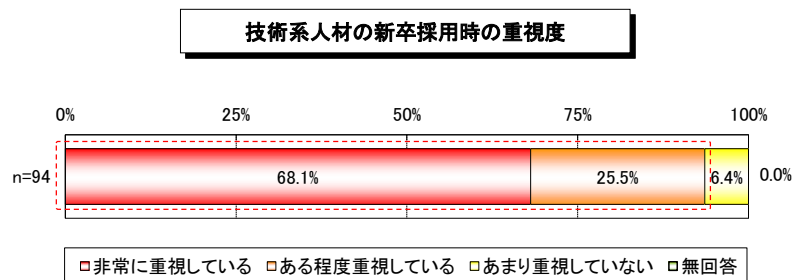
- 「IT企業」については、**創業年代別に業種区分の構成比が多少異なる**点に留意が必要である。
- 創業が「1960年代以前」の企業は、「受託ソフトウェア開発・システムインテグレーション(SI)」のほか、「情報処理・各種ITサービス」の割合が高くなっている。また、創業が「1970～80年代」の企業は、「受託ソフトウェア開発・システムインテグレーション(SI)」が半数を超えている。これに対して、創業が「1990年代以降」の企業は、「受託ソフトウェア開発・システムインテグレーション(SI)」の割合は3～4割程度にとどまり、「インターネット関連サービス」や「通信・通信関連サービス」の企業があわせて4割を超えている。
- 従業員規模別の業種区分を示す右図を見ると、従業員規模にかかわらず多様な業種が含まれているが、**特に「99人以下」の区分において、「インターネット関連サービス」や「通信・通信関連サービス」を手がける企業の割合がやや高い**ことが読み取れる。



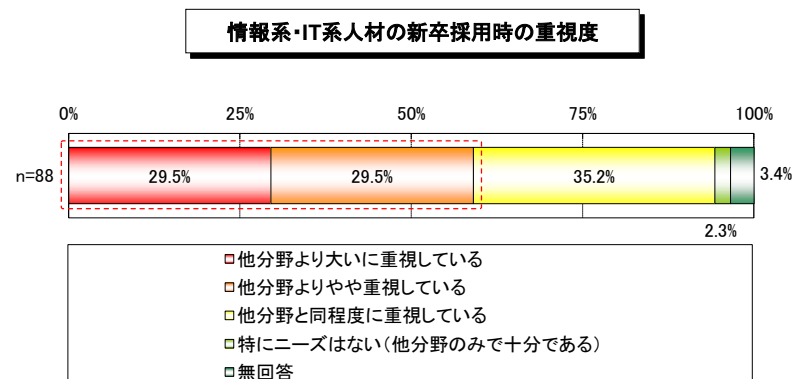
■ 新卒採用における「技術系」人材及び「情報系」人材の重視度

- 今年度の調査では、冒頭の設問において、調査対象企業の新卒採用時の際に、技術系の人材の採用を重視しているかを尋ねた。その結果、左図のとおり、約7割程度の企業が「非常に重視している」と回答する結果となった。「ある程度重視している」をあわせると、**全体の9割程度の企業が「非常に重視している」、「ある程度重視している」と回答している**。
- また、「非常に重視している」、「ある程度重視している」と回答した企業に対して、特に情報系・IT系の人材を他分野と比べて重視しているかを尋ねたところ、右図のような結果となった。**全体の6割程度の企業が「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」と回答している**。
- 続いて、次頁以降には、昨年度の調査結果との比較と、回答企業の属性別の回答の比較を示す。

【問1-1】 貴社では、新卒採用において、技術系の人材の採用を重視していますか。



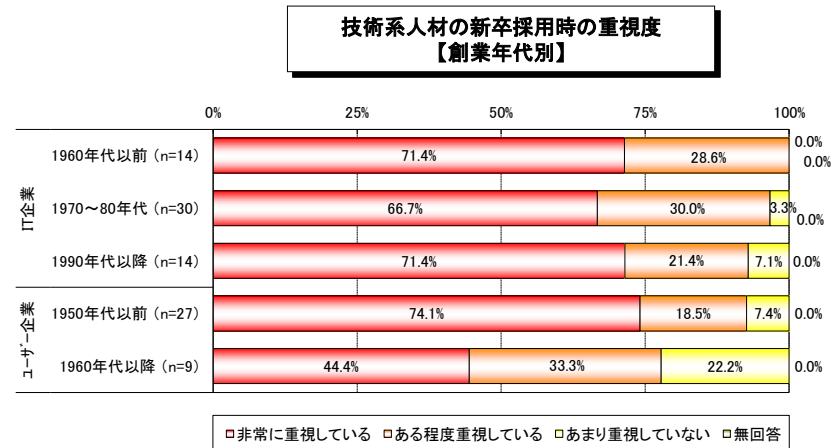
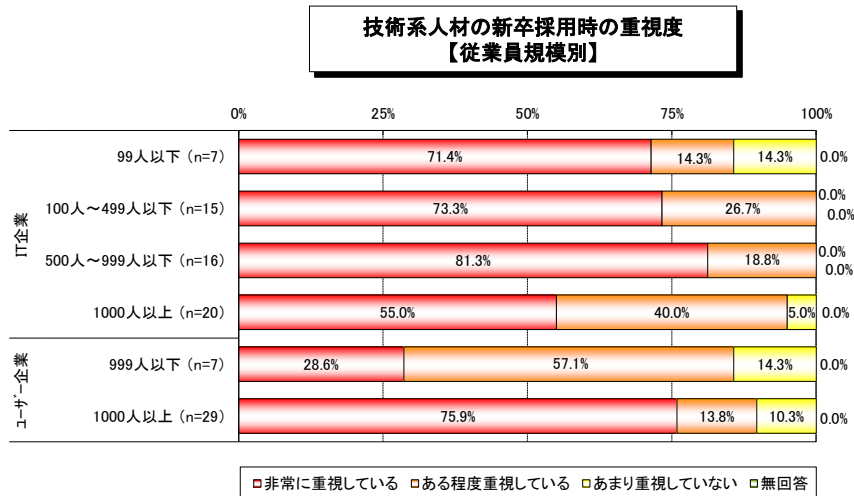
【問1-2】 (前問で「重視している」と回答した場合)技術系の人材のうち、特に情報系・IT系分野を専攻した人材を採用することを他分野と比べて重視していますか。



■ 新卒採用における「技術系」人材の重視度 【従業員規模別・創業年代別】

- 新卒採用における技術系人材の重視度に関する回答を、「IT企業」及び「ユーザー企業」に分けてみると、左図のとおり、**ユーザー企業においても、1,000人以上の大規模な企業では、技術系の人材に対するニーズが比較的高い**ことが読み取れる結果となった。
- また、「創業年代別」(右図)をみると、ユーザー企業では、「1950年代以前」の企業のほうが、「1960年代以降」の企業よりも「非常に重視している」または「ある程度重視している」という回答が1割以上高いという結果となっている。IT企業は、いずれの創業年代の企業の回答も同じ傾向となった。

【問1-1】 貴社では、新卒採用において、技術系の人材の採用を重視していますか。



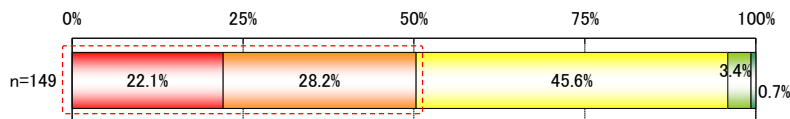
■ 新卒採用における「情報系」人材の重視度【昨年度との比較】

- 昨年度調査でも尋ねた、情報系・IT系の人材の採用を他分野の人材と比べて重視しているかという設問の回答結果を、昨年度調査と比較すると、「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」と回答した割合は、**1割程度増加している**。
- 今年度の調査は、ユーザー企業からの回答の割合がやや高くなっていることなどを踏まえると、**企業における情報系人材の重要性がやや高まっている可能性がある**と考えられる。

【問1-2】（前問で「重視している」と回答された場合）技術系の人材のうち、特に情報系・IT分野を専攻した人材を採用することを他分野と比べて重視していますか。

2014年度

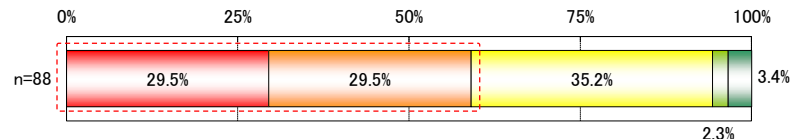
情報系・IT系人材の新卒採用時の重視度
【昨年度(2014年度)】



- 他分野より大いに重視している
- 他分野よりやや重視している
- 他分野と同程度に重視している
- 特にニーズはない(他分野のみで十分である)
- 無回答

2015年度

情報系・IT系人材の新卒採用時の重視度
【今年度(2015年度)】

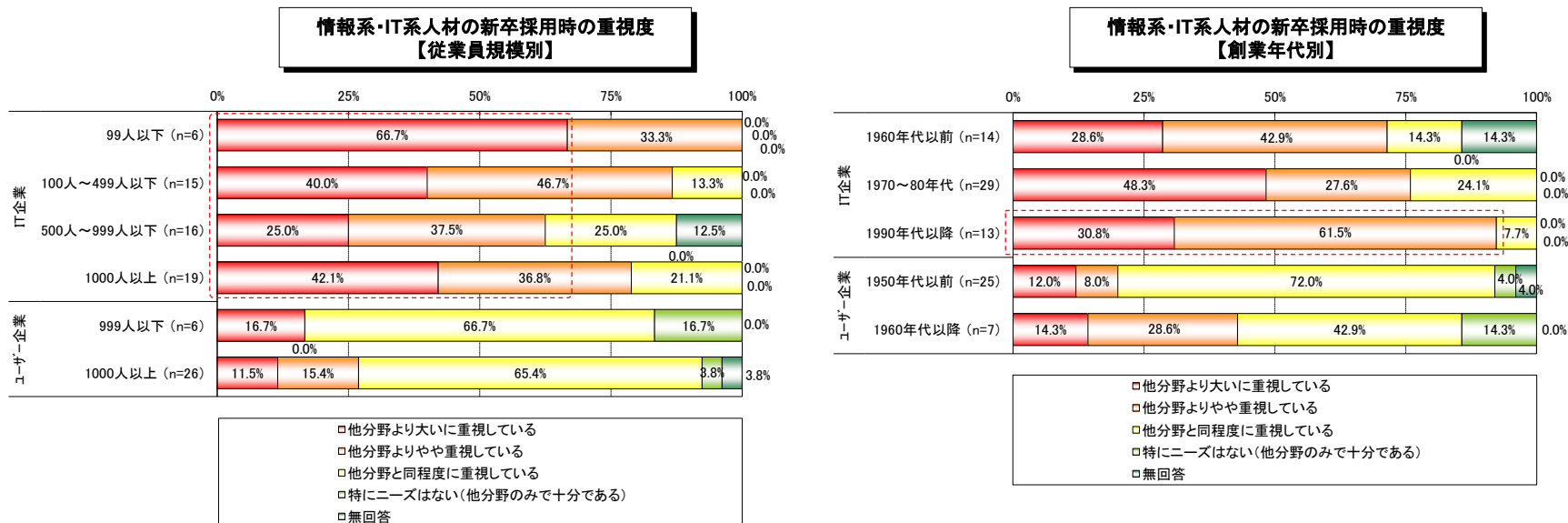


- 他分野より大いに重視している
- 他分野よりやや重視している
- 他分野と同程度に重視している
- 特にニーズはない(他分野のみで十分である)
- 無回答

■ 新卒採用における「情報系」人材の重視度 【従業員規模別・創業年代別】

- 情報系・IT系人材の採用時の重視度に関する回答を、「従業員規模別」及び「創業年代別」にみると、当然ではあるが、全体的にはIT企業のほうが重視度が高くなっている。
- 「従業員規模別」を見ると、特にIT企業では、**従業員規模の小さな企業のほうが「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」という回答が多い傾向がみられる。**
- また、「創業年代別」に見ると、新しい企業ほど「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」と回答した割合が高くなっており、**新しい企業ほど情報系・IT系人材に対するニーズが強くなる傾向がある**ことがうかがえる。

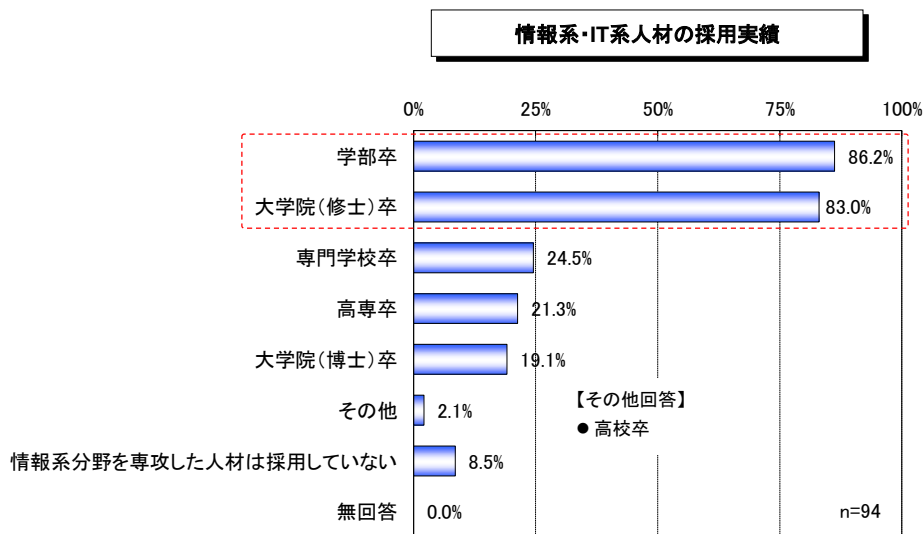
【問1-2】（前問で「重視している」と回答された場合）技術系の人材のうち、特に情報系・IT系分野を専攻した人材を採用することを他分野と比べて重視していますか。



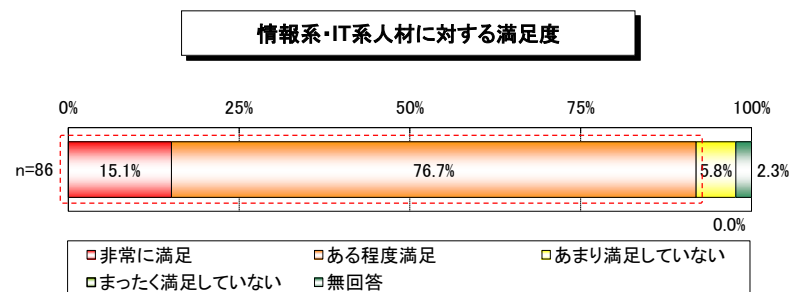
直近5年間の情報系人材の採用実績と満足度

- 直近の5年間の情報系・IT系人材の採用実績について尋ねた設問の結果をみると、採用した人材の学歴として、「学部卒」、「大学院(修士卒)」が8割を越えている。
- また、直近5年間に採用された情報系・IT系人材に対する満足度を尋ねた設問では、「非常に満足」または「ある程度満足」と回答した割合が9割を越えており、**採用した情報系人材に対する満足度は比較的高い**ことがうかがえる。

【問2-1】 貴社では、直近5年間の新卒採用において、情報系・IT系分野を専攻した人材を採用した実績がありますか。以下のうち、直近5年間に採用した実績がある情報系人材の学歴として当てはまるものをすべてお選びください。



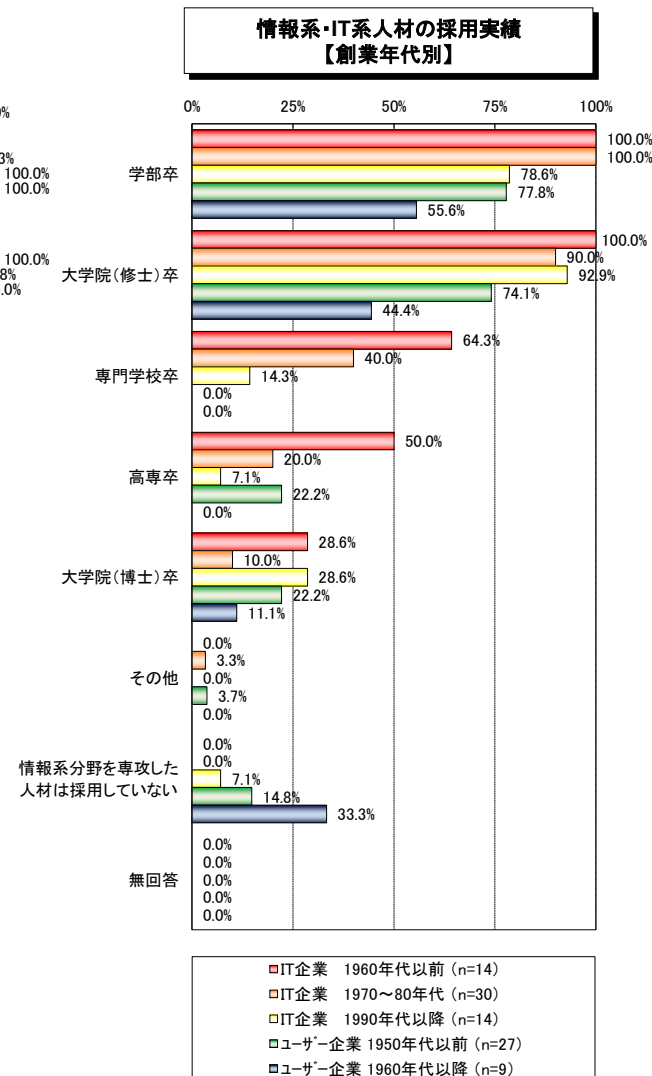
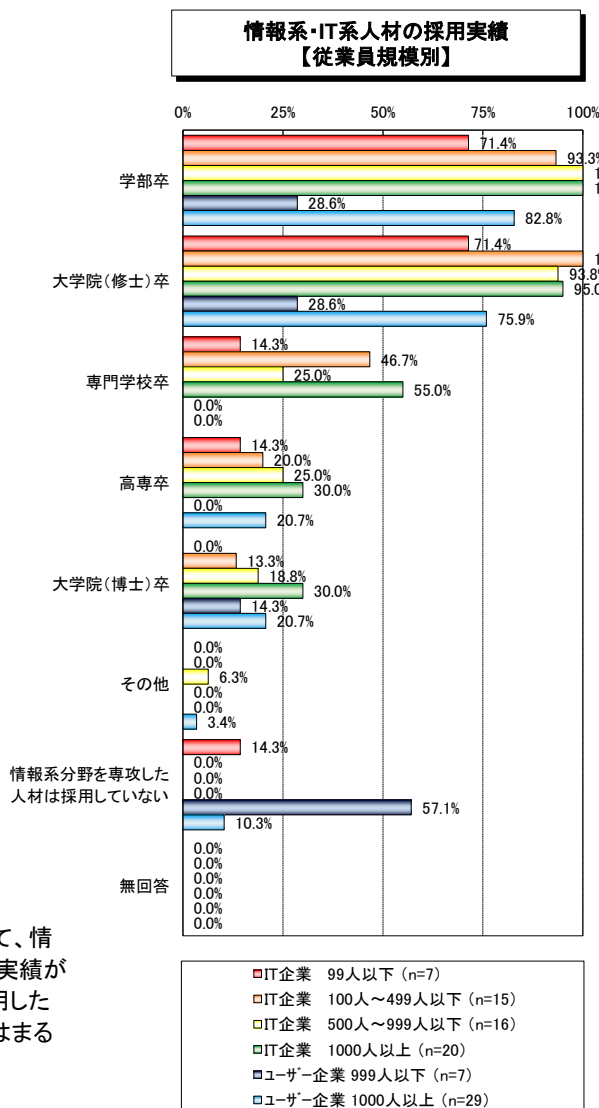
【問2-2】 直近5年間に貴社で採用された情報系の人材に対して、どの程度満足していますか。



直近5年間の情報系人材の採用実績【従業員規模別・創業年代別】

- 情報系・IT系の採用実績に関する回答を「従業員規模別」及び「創業年代別」にみると、「従業員規模別」では、IT企業・ユーザー企業ともに、**従業員規模の大きい企業のほうが情報系人材の採用実績が多い**という傾向がみられる。
- 「創業年代別」に見ると、IT企業・ユーザー企業ともに**伝統的な企業のほうが情報系人材の採用実績が多い**。
- 特にIT企業の「1960年代以前」の企業では、専門学校卒や高専卒のほか、大学院(博士卒)の採用実績も高いなど、幅広い人材を採用しているという傾向が読み取れる。

【問2-1】 貴社では、直近5年間の新卒採用において、情報系・IT系分野を専攻した人材を採用した実績がありますか。以下のうち、直近5年間に採用した実績がある情報系人材の学歴として当てはまるものをすべてお選びください。



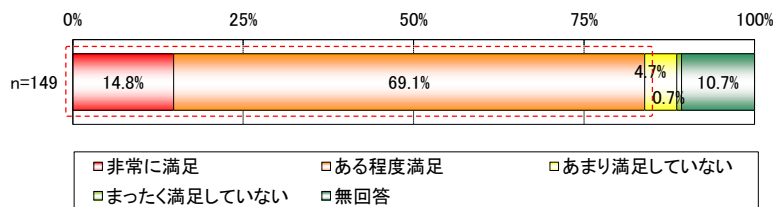
■ 直近5年間の情報系人材に対する満足度【昨年度との比較】

- 直近5年間に採用された情報系・IT系人材に対する満足度についての設問の結果を昨年度と比較すると、「非常に満足」、「ある程度満足」と回答した割合が1割弱ではあるが、若干上昇していることが読み取れる。
- P.8において、企業にとっての情報系・IT系人材の重要性が高まっている可能性があることを示したが、情報系人材に対する満足度も、昨年度と比較してやや高まっている可能性があるといえる。

【問2-2】 直近5年間に貴社で採用された情報系の人材に対して、どの程度満足していますか。

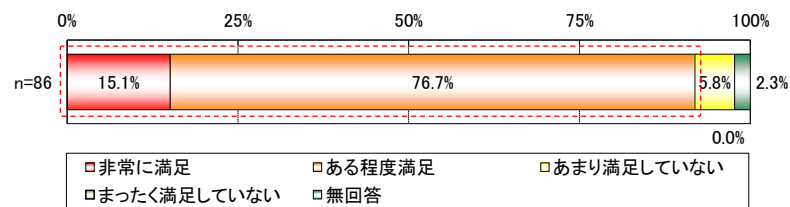
2014年度

情報系・IT系人材に対する満足度
【昨年度(2014年度)】



2015年度

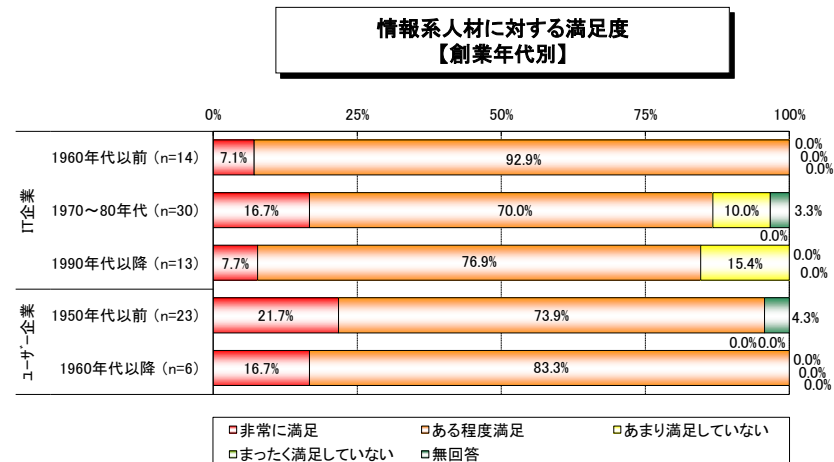
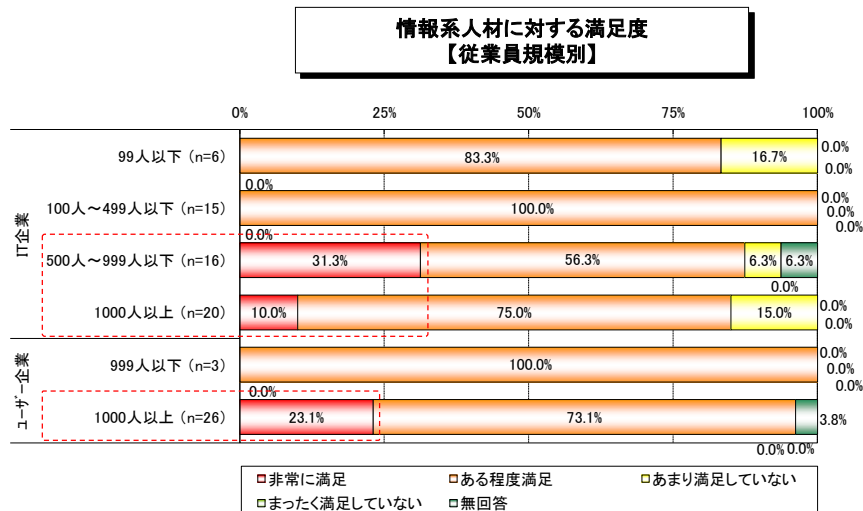
情報系・IT系人材に対する満足度
【今年度(2015年度)】



直近5年間の情報系人材に対する満足度【従業員規模別・創業年代別】

- 最近5年の間に採用された情報系人材に対する満足度について、「従業員規模別」、「創業年代別」に回答をみると、「従業員規模別」では、比較的**従業員規模が大きい企業のほうが「非常に満足」という回答が得られやすい**傾向がみられた。
- また、全体的にみると、「非常に満足」または「ある程度満足」と回答した割合は8割を上回っているが、IT企業では、一部「あまり満足していない」という回答もみられる。**企業によっては、満足度に課題がある**現状がうかがえる。

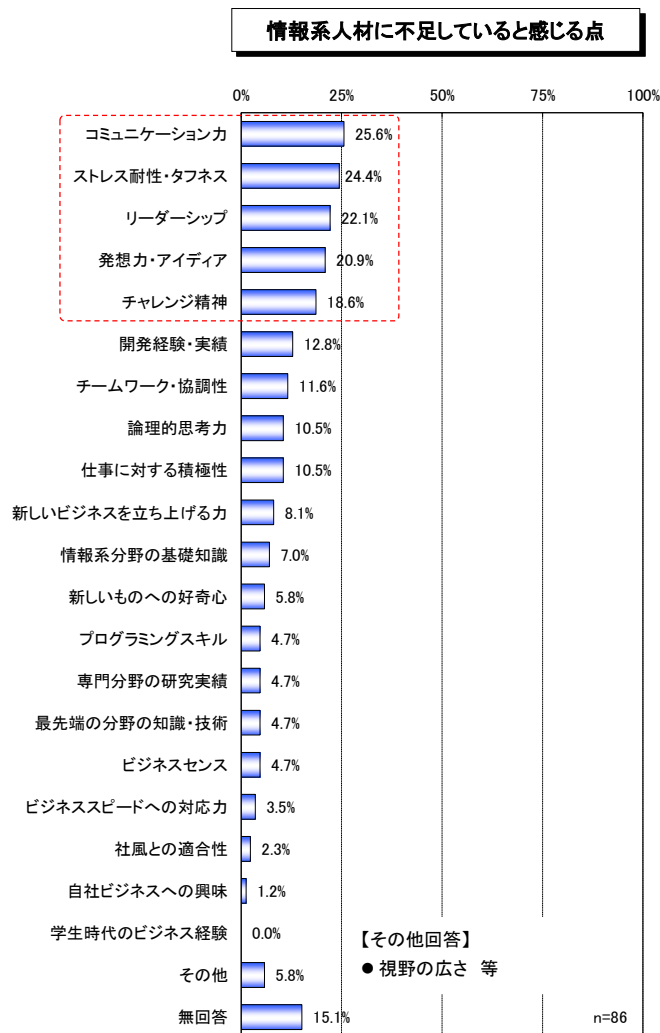
【問2-2】直近5年間に貴社で採用された情報系の人材に対して、どの程度満足していますか。



■ 直近5年間に採用した情報系人材に特に不足していると感じる点

【問2-3】 直近5年間に貴社で採用された情報系分野の人材について、特に不足している（貴社が期待する水準に満たない）と感じる点は何ですか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

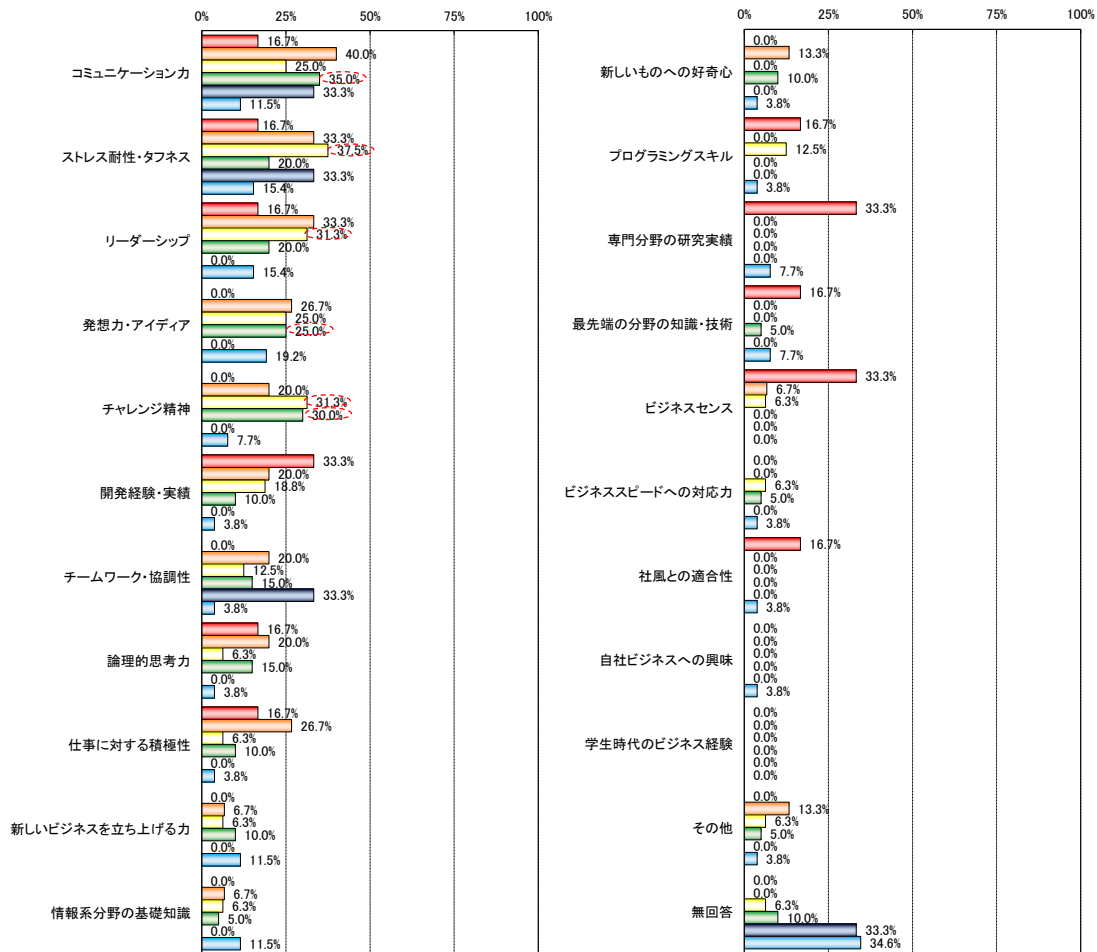
- 直近5年間で採用した情報系人材に不足している点を尋ねた設問では、「**コミュニケーション力**」、「**ストレス耐性・タフネス**」、「**リーダーシップ**」、「**発想力・アイデア**」、「**チャレンジ精神**」が**上位5つ**となり、それぞれ2割前後の回答を集める結果となった。
- 上記の5項目に続いて、「開発経験・実績」、「チームワーク・協調性」、「論理的思考力」、「仕事に対する積極性」等の回答が多くなっており、これらは1割前後の回答を集めている。
- 「プログラミングスキル」や「専門分野の研究経験」、「情報系分野の基礎知識」等を不足していると回答した企業は1割未満となっており、情報系人材に期待されるこれらの点の不足を感じている企業は比較的少ないといえる結果となっている。



直近5年間に採用した情報系人材で特に不足していると感じる点 【従業員規模別】

- 直近5年間で採用した情報系人材に不足している点についての回答、「従業員規模別」にみると、**IT企業のうち特に1,000名以上の大企業では、第1位が「コミュニケーション力」、第2位が「チャレンジ精神」、第3位「発想力・アイデア」となっており、専門的スキル以外の能力についての不足を感じている企業が多い。**
- 500～999名の従業員規模の中堅IT企業では、第1位が「ストレス耐性・タフネス」、第2位が「リーダーシップ」、「チャレンジ精神」となっている。

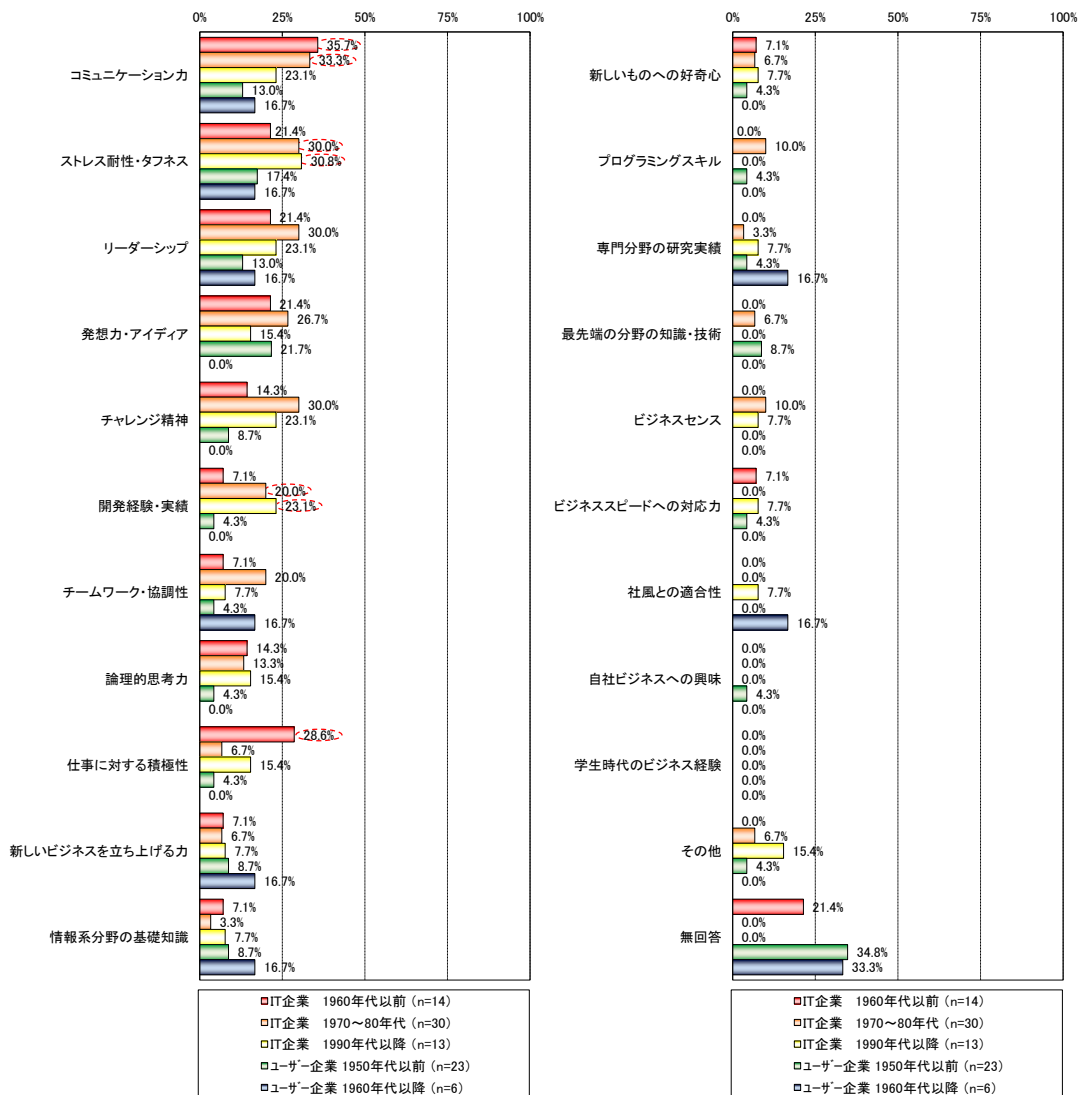
情報系人材に不足していると感じる点
【従業員規模別】



直近5年間に採用した情報系人材で特に不足していると感じる点 【創業年代別】

- 直近5年間に採用した情報系人材に不足している点を、創業年代別にみると、創業年数の長いIT企業のほうが「**コミュニケーション力**」が不足していると回答している割合が高いという結果となっている。
- その他、「**仕事に対する積極性**」については、1960年代以前の企業が突出して高くなっている。
- 「**ストレス耐性・タフネス**」や「**開発経験・実績**」については、創業年数が比較的新しい企業のほうが不足していると回答している割合が高い。

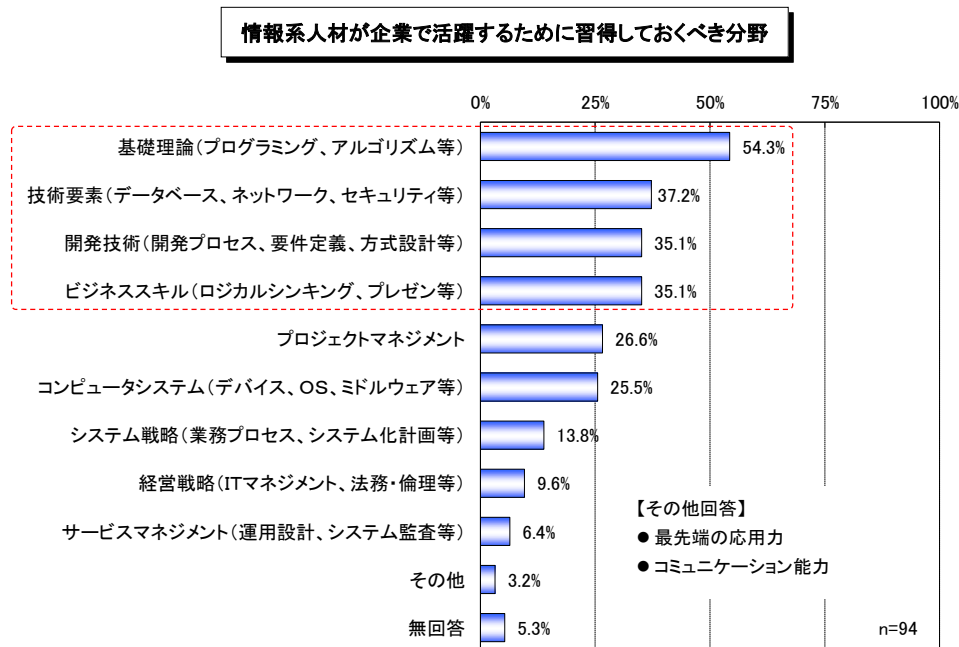
情報系修士卒の人材を採用する際に重視する点
【創業年代別】



■ 情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野

- 情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野について尋ねたところ、「**基礎理論(プログラミング、アルゴリズム等)**」と回答した割合が**5割を超える**結果となった。
- 続いて、「**技術要素(データベース、ネットワーク、セキュリティ等)**」、「**開発技術(開発プロセス、要件定義、方式設計等)**」、「**ビジネススキル(ロジカルシンキング、プレゼン等)**」と回答した割合が35%程度となっている。「**ビジネススキル(ロジカルシンキング、プレゼン等)**」との回答が「**技術要素**」や「**開発技術**」と並んで**多くなっている**点が注目される。

【問3】 情報系分野の新卒人材が、今後、企業で活躍するために学校で特に習得しておくべき分野は何だと思いますか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。



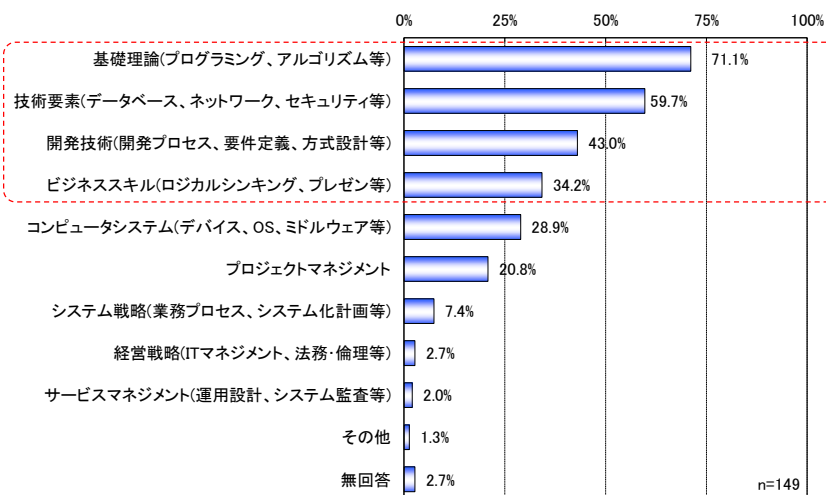
■ 情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野【昨年度との比較】

- 2014年度の調査では、情報系修士卒の人材に特に重点的に学んでおいてほしい分野という形で、前頁と同様の内容を尋ねているが、この回答結果を今年度と比較すると、上位4分野である「基礎理論(プログラミング、アルゴリズム等)」、「技術要素(データベース、ネットワーク、セキュリティ等)」、「開発技術(開発プロセス、要件定義、方針設計等)」、「ビジネススキル(ロジカルシンキング、プレゼン等)」の順位は変動しておらず、**企業からのニーズは依然として高い**と考えられる。
- なお、昨年度と比較すると、上記4項目間の差が小さくなっていることが読み取れる。

【問3】 情報系分野の新卒人材が、今後、企業で活躍するために学校で特に習得しておくべき分野は何だと思えますか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

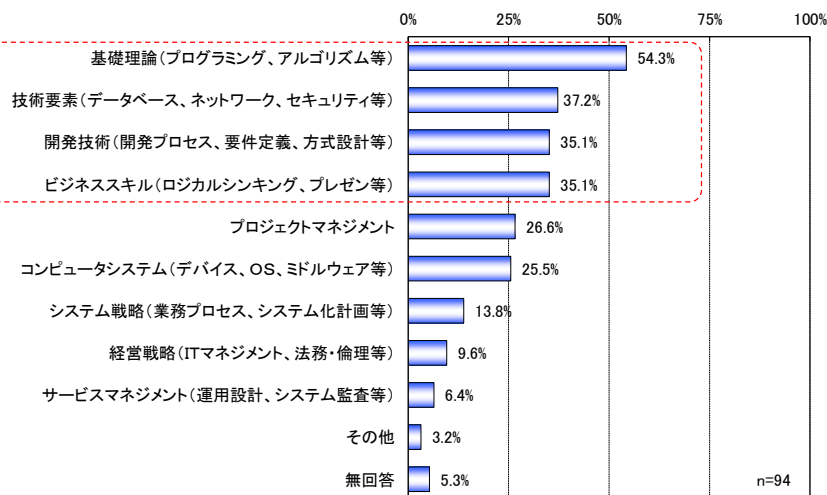
2014年度

情報系修士卒の人材に特に重点的に学んでおいてほしい分野
【昨年度(2014年度)】



2015年度

情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野
【今年度(2015年度)】

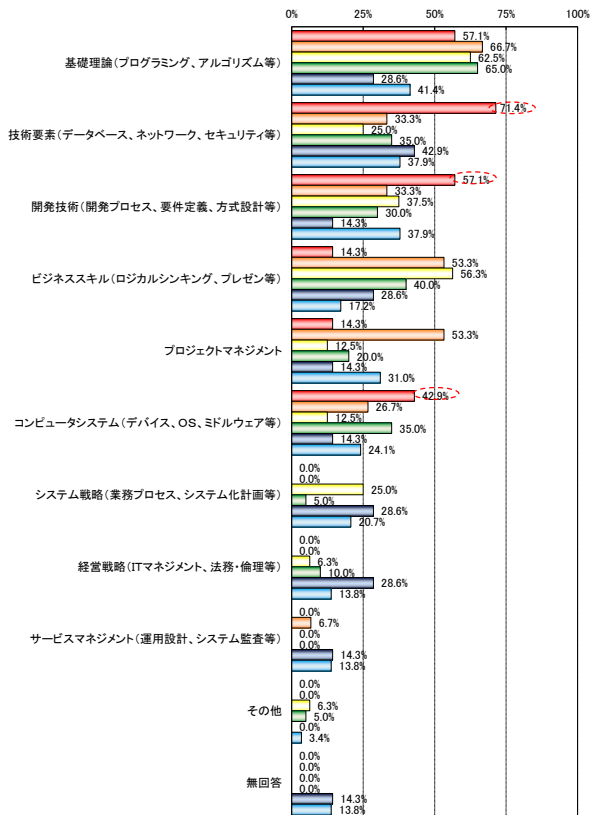


情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野 【従業員規模別・創業年代別】

- 情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野について尋ねた設問を、「従業員規模別」、「創業年代別」に見ると、右図のようになった。
- 「従業員規模別」をみると、IT企業のうち比較的規模の小さい企業において「技術要素」、「開発技術」、「コンピューターシステム」といった技術的な分野に対するニーズが高いことが分かる。
- 「創業年代別」にみると、IT企業では、伝統的な企業のほうが「ビジネススキル」を習得しておくべきと回答した割合が高い。
- ユーザー企業では、創業年数が比較的新しい企業で「システム戦略」、「経営戦略」といった戦略に関する分野の回答が多い傾向が見られた。

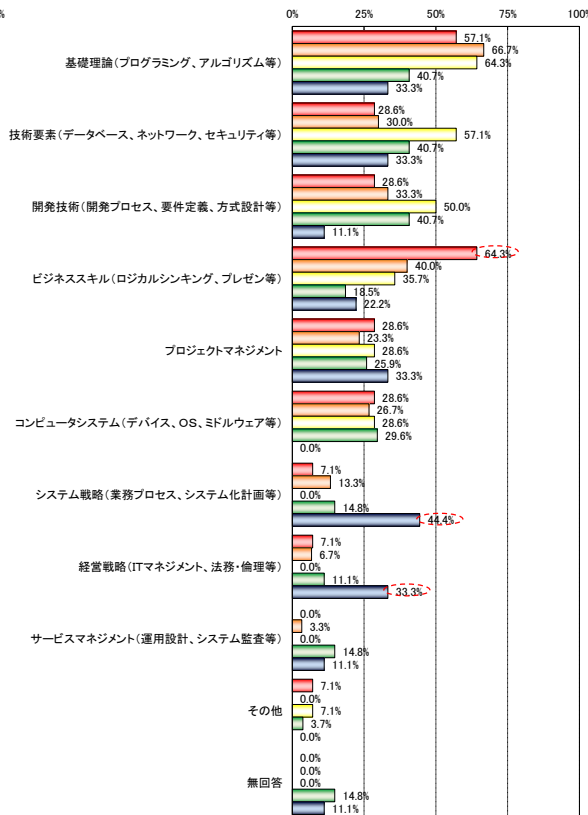
【問3】 情報系分野の新卒人材が、今後、企業で活躍するために学校で特に習得しておくべき分野は何だと思いませんか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野
【従業員規模別】



IT企業 99人以下 (n=7)
 IT企業 100人~499人以下 (n=15)
 IT企業 500人~999人以下 (n=16)
 IT企業 1000人以上 (n=20)
 ユーザー企業 999人以下 (n=7)
 ユーザー企業 1000人以上 (n=29)

情報系人材が企業で活躍するために習得しておくべき分野
【創業年代別】

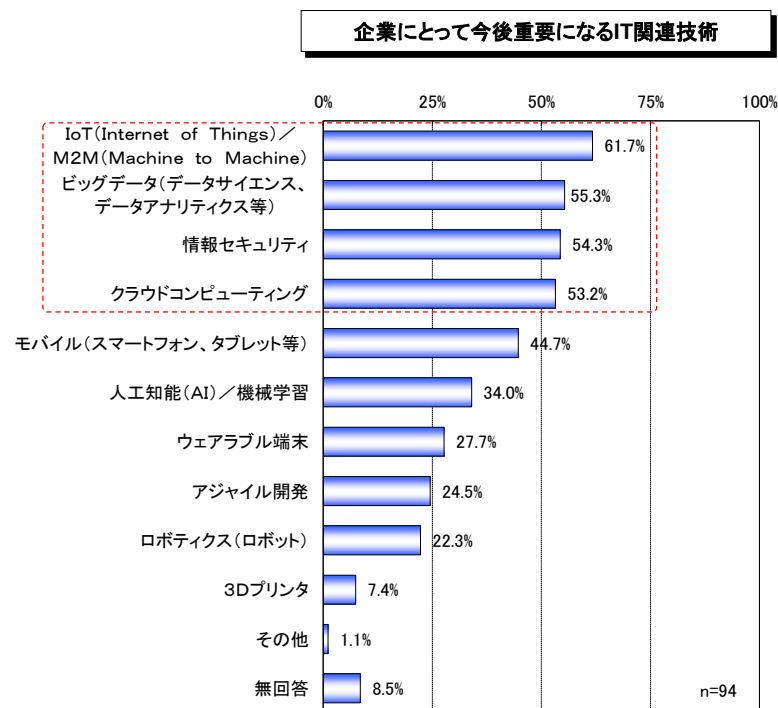


IT企業 1960年代以前 (n=14)
 IT企業 1970~80年代 (n=30)
 IT企業 1990年代以降 (n=14)
 ユーザー企業 1950年代以前 (n=27)
 ユーザー企業 1960年代以降 (n=9)

■ 企業にとって今後重要になるIT関連技術

- 情報系・IT関連分野において注目している技術や重要視している技術をたずねる設問では、「IoT(Internet of Things)／M2M(Machine to Machine)」、「ビッグデータ(データサイエンス、データアナリティクス等)」のほか、「情報セキュリティ」、「クラウドコンピューティング」が上位4項目となり、5割を超える企業が回答している。これらの技術は、今後も引き続き企業にとって重要な技術として位置づけられる可能性が高い。
- 「モバイル(スマートフォン、タブレット等)」も4割を超える結果となった。
- 「人工知能(AI)／機械学習」については、3分の1程度の企業が重要と考えているとみられる。
- 「ロボティクス(ロボット)」や「3Dプリンタ」といったものづくり関連の技術については下位となり、他の技術に比べると注目度が低くなっている。

【問4】 情報系・IT関連分野において、貴社が現在特に注目している技術や今後貴社での活用が重要と考えられる技術・手法等がありますか。以下のうち、当てはまるものをすべてお選びください。

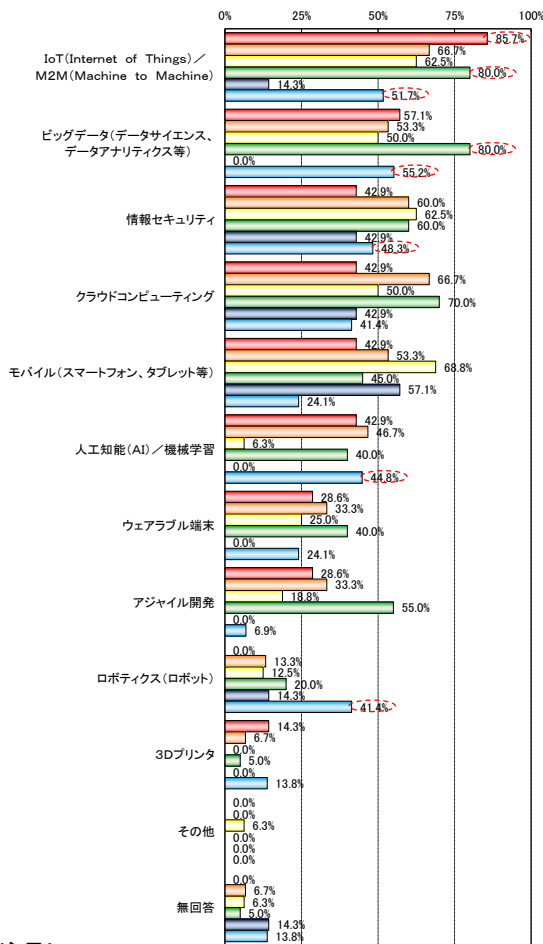


■ 企業にとって今後重要になるIT関連技術 【従業員規模別・創業年代別】

- 前頁の回答を「従業員規模別」にみると、IT企業の**1,000人以上のIT企業では、「IoT/M2M」のほか、「ビッグデータ」に対する関心が特に高い。**
- また、「IoT/M2M」に対する注目度は「99人以下」の企業において最も高くなっている。
- ユーザー企業では、比較的大きな企業が「IoT/M2M」や「ビッグデータ」、「情報セキュリティ」等、IT企業と同様の技術に関心を持っている。また「**人工知能**」や「**ロボティクス**」といった分野もユーザー企業のうち比較的大きな企業の注目が高いことが見て取れる。
- 「創業年代別」のIT企業の結果では、創業年代の古い企業ほど様々な技術に注目している様子が見て取れる。また、**新しいIT企業が「人工知能」に高い関心を持っている点**が注目される。

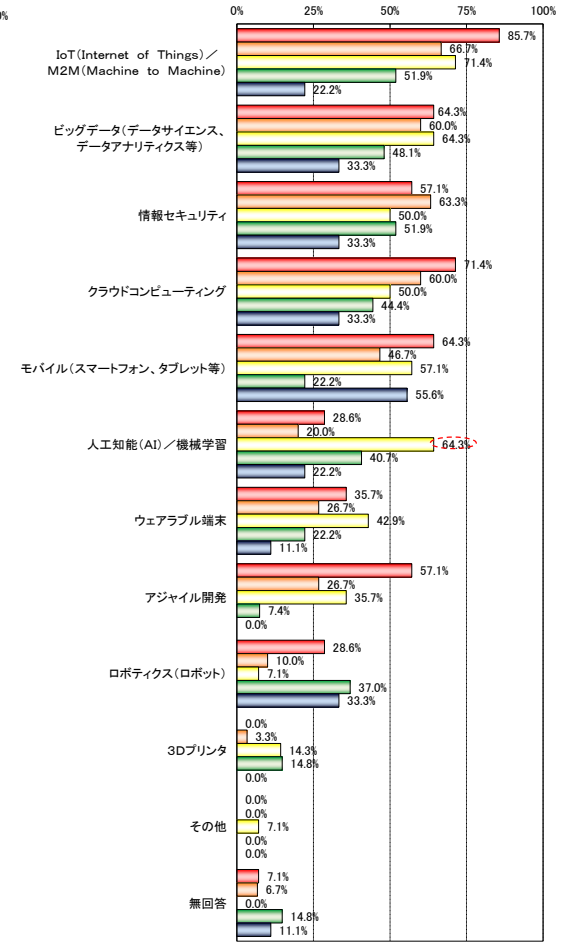
【問4】 情報系・IT関連分野において、貴社が現在特に注目している技術や今後貴社での活用が重要となると考えられる技術・手法等がありますか。以下のうち、当てはまるものすべてをお選びください。

企業にとって今後重要になるIT関連技術 【従業員規模別】



IT企業 99人以下 (n=7)
 IT企業 100~499人以下 (n=15)
 IT企業 500~999人以下 (n=16)
 IT企業 1000人以上 (n=20)
 ユーザー企業 999人以下 (n=7)
 ユーザー企業 1000人以上 (n=29)

企業にとって今後重要になるIT関連技術 【創業年代別】



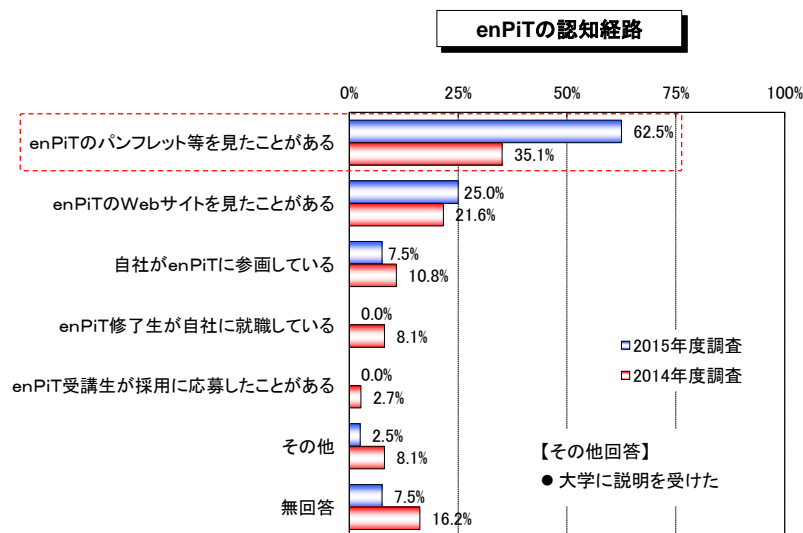
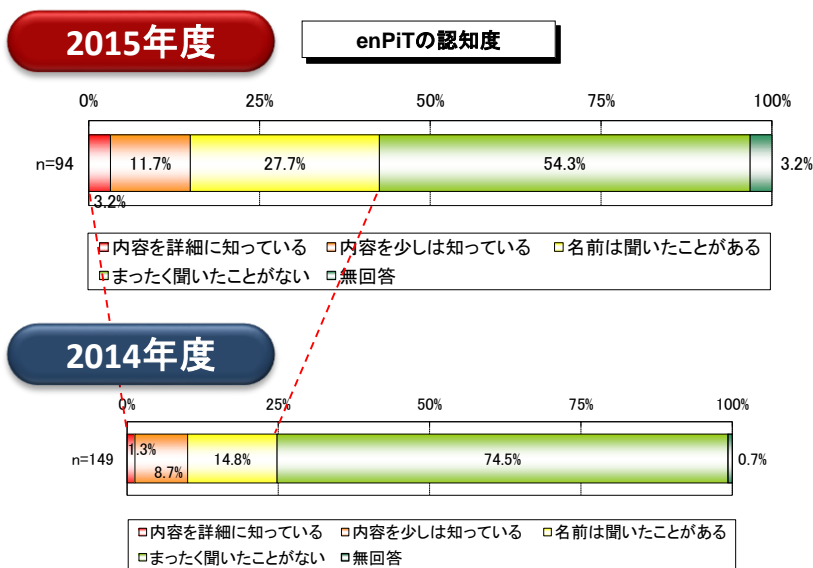
IT企業 1960年代以前 (n=14)
 IT企業 1970~80年代 (n=30)
 IT企業 1990年代以降 (n=14)
 ユーザー企業 1950年代以前 (n=27)
 ユーザー企業 1960年代以降 (n=9)

enPiTの認知度と認知経路【昨年度との比較】

- 企業向けの調査では、昨年度、今年度とenPiTの認知度や認知経路を尋ねている。
- enPiTの認知度については、「内容を詳細に知っている」、「内容を少しは知っている」、「名前は聞いたことがある」と回答した企業が**4割程度**であった。昨年度(25%)と比較すると、**15%程度もenPiTの認知度が高まっている**。
- enPiTの認知経路としては、「パンフレット」や「Webサイト」が上位を占めており、特に昨年度と比較して「**パンフレット**」を見たという回答が**3割程度高まっている**点が注目される。

【問5】 現在、大阪大学を中心に全国の大学院において、文部科学省の補助事業として、複数の大学と産業界による全国的なネットワークの形成や、大学における情報技術分野の実践的な教育を目的とする「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」(「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク」(enPiT:エンピット))が実施されています。貴殿はこの事業についてご存知ですか。

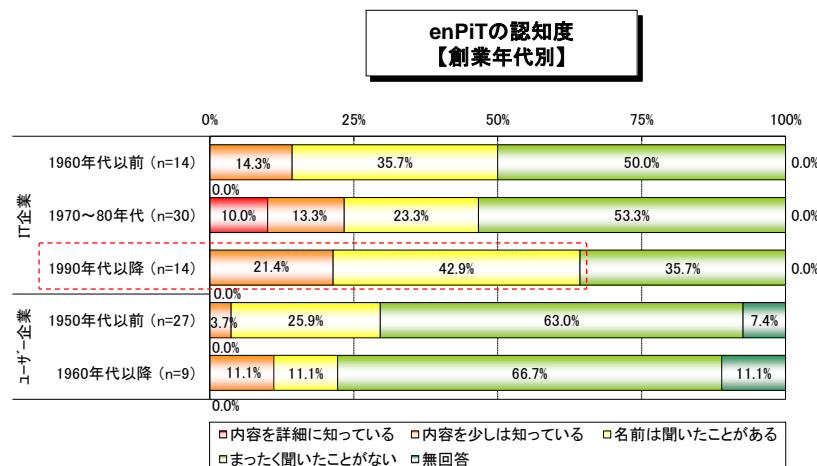
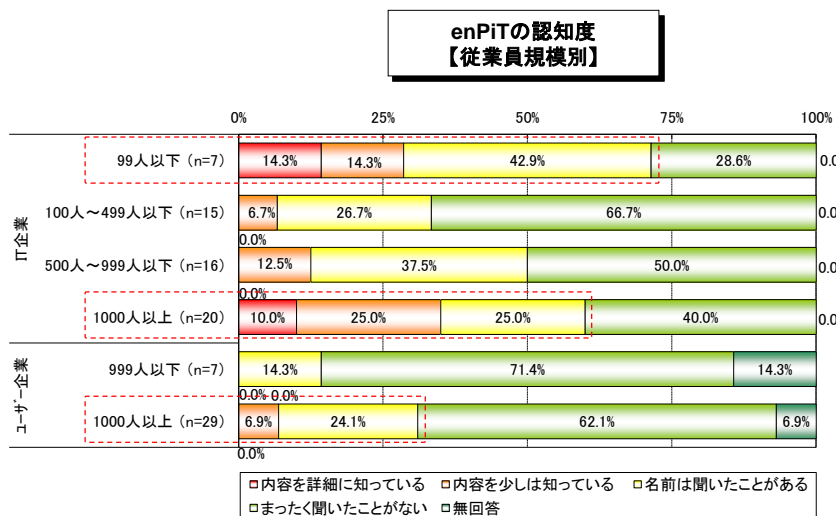
【問6】 ((5)で「知っている」「聞いたことがある」と回答された場合)貴殿は何を通じてenPiTを知りましたか。以下のうち、当てはまるものをお選びください。



enPiTの認知度【従業員規模別・創業年代別】

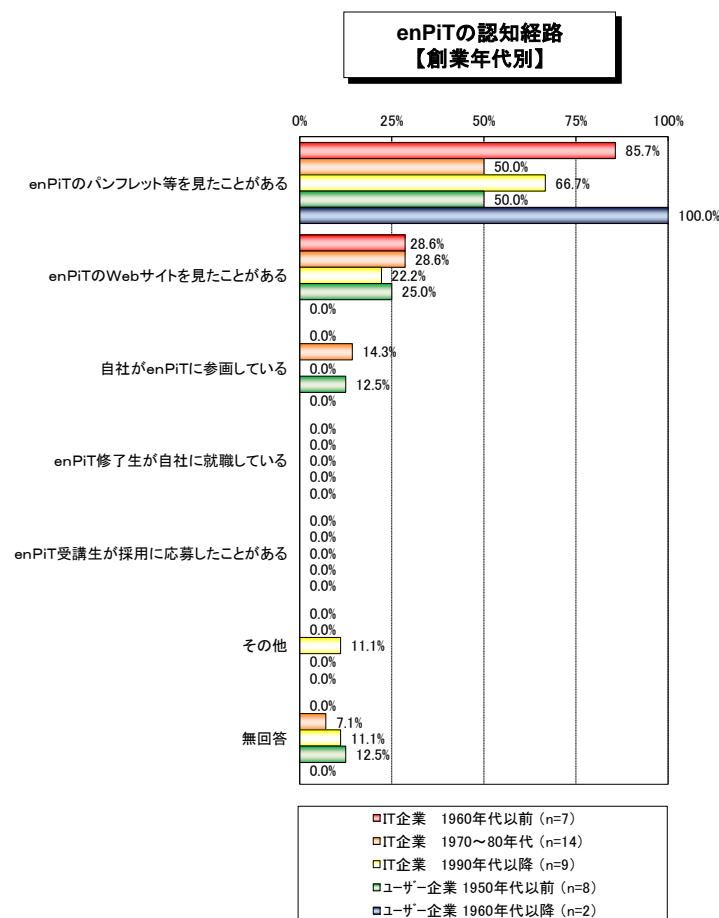
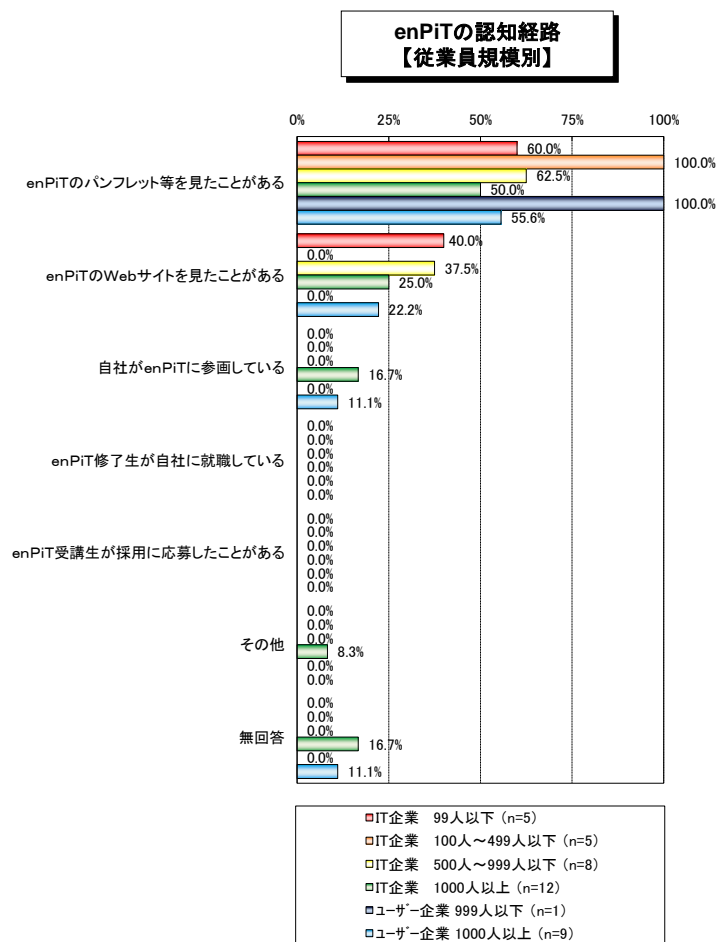
- enPiTの認知度は、**IT企業では約3～5割程度、ユーザー企業では約2～3割程度**とみられる。
- また、従業員規模別、創業年代別に見ると、従業員規模別では「99人以下のIT企業」、「500～999人以下のIT企業」、「1,000人以上のIT企業」で認知度が5割を上回っている。創業年代別では、「1990年代以降に創業したIT企業」において5割を上回っており、**従業員規模の大きな企業か、従業員規模の小さな新興IT企業において特に認知度が高い傾向がある**ことがうかがえる。

【問5】 現在、大阪大学を中心に全国の大学院において、文部科学省の補助事業として、複数の大学と産業界による全国的なネットワークの形成や、大学における情報技術分野の実践的な教育を目的とする「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」（「分野・地域を越えた実践の情報教育協働ネットワーク」（enPiT:エンピット））が実施されています。貴殿はこの事業についてご存知ですか。



enPiTの認知経路【従業員規模別・創業年代別】

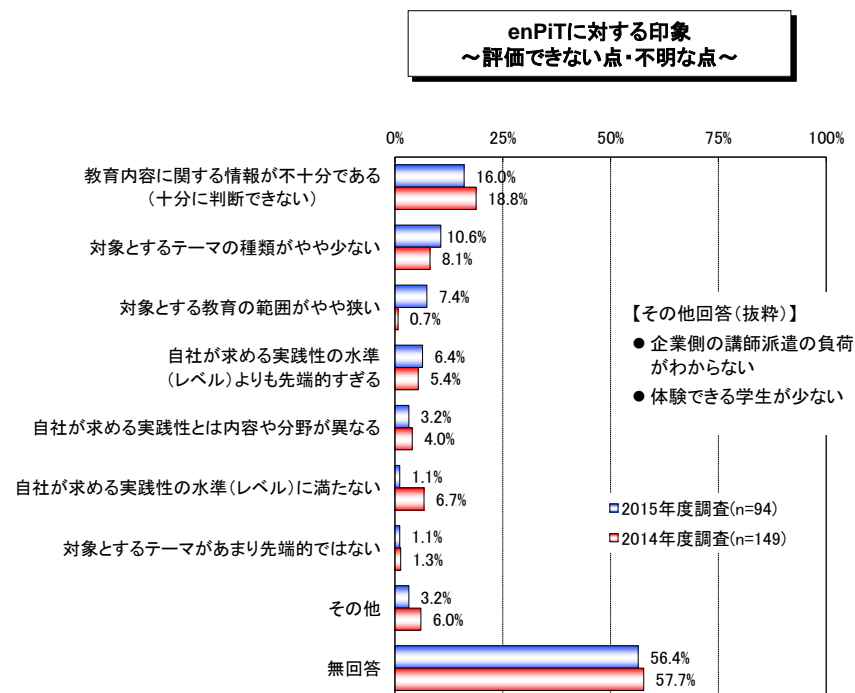
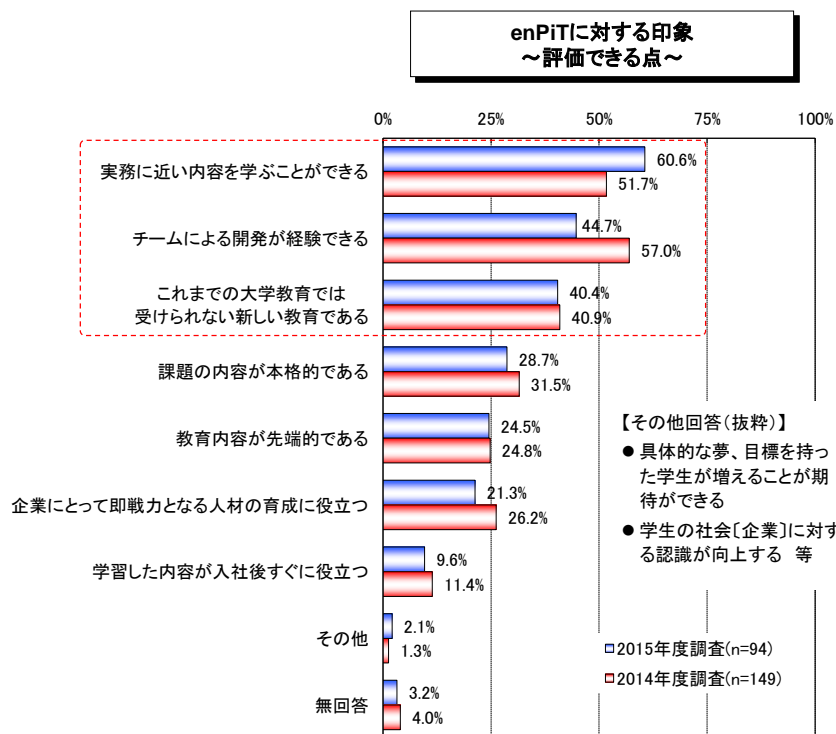
- enPiTの認知経路としては、IT企業・ユーザー企業ともに「パンフレット」の割合が高い。
- WEBサイトを見たことがある企業は、全体の2～4割程度となっている。



enPiTに対する印象 ～評価できる点／評価できない点・不明な点～

- enPiTについて評価できる点としては、「**実務に近い内容を学ぶことができる**」という回答が最も高く、次いで「**チームによる開発が経験できる**」、「**これまでの大学教育では受けられない新しい教育である**」の順となった。昨年度と比較しても、上位3点は同様となっている。
- 一方で、評価できない点・不明な点としては、「**教育内容に関する情報が不十分である**」と回答した割合が昨年度と同様に最も高い。

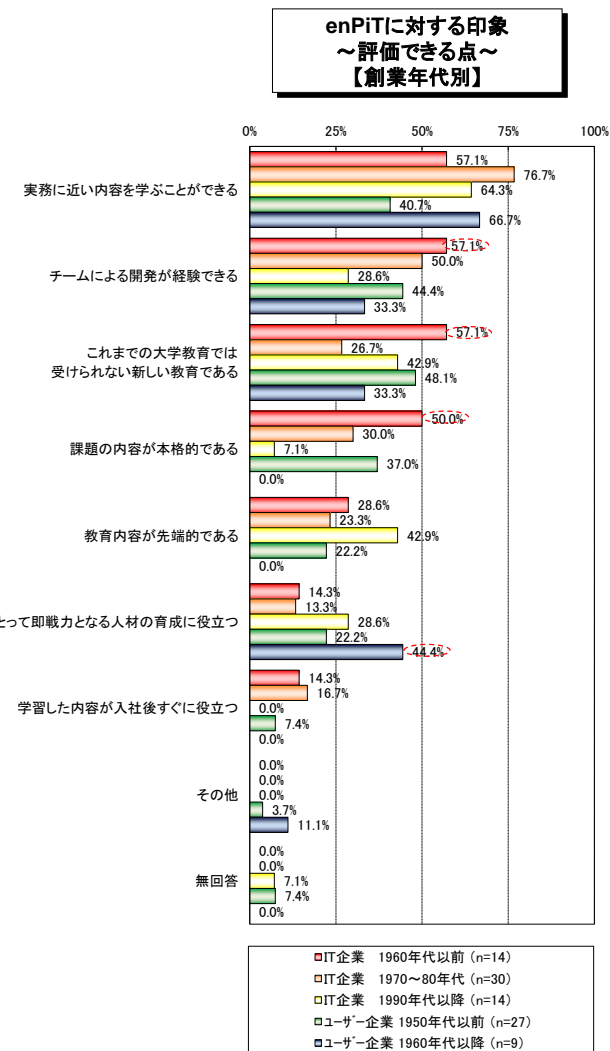
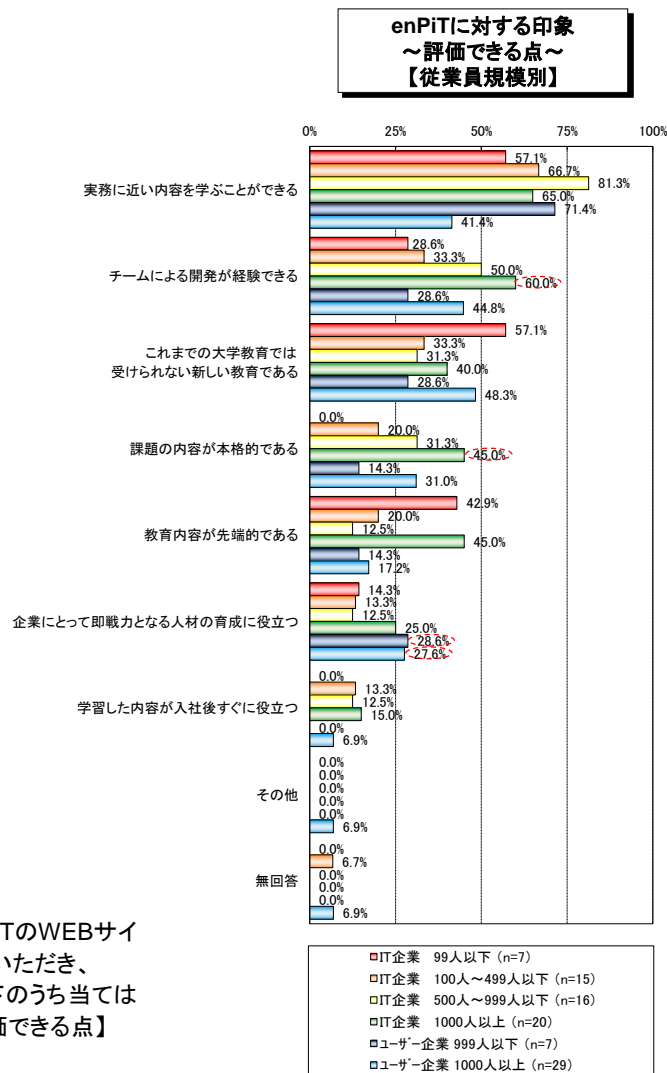
【問7】 同封のenPiTパンフレットまたはenPiTのWEBサイト(<http://www.enpit.jp/>)を簡単にご覧いただき、enPiTに対する貴殿の印象として、以下のうち当てはまるものをすべてお選びください。



enPiTに対する印象 ～評価できる点～ 【従業員規模別・創業年代別】

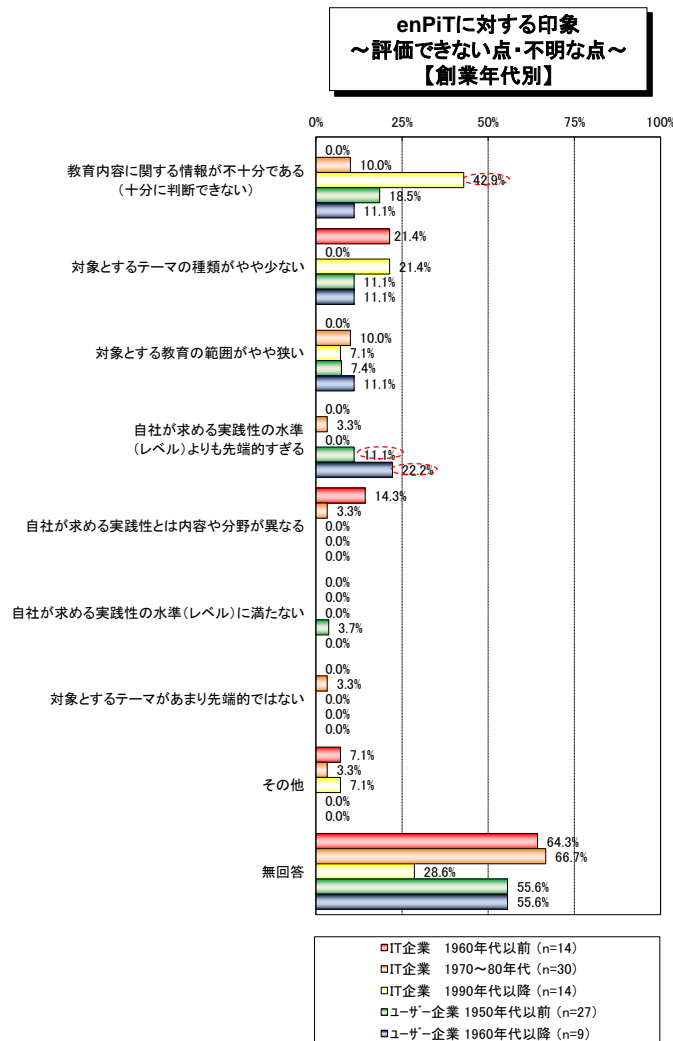
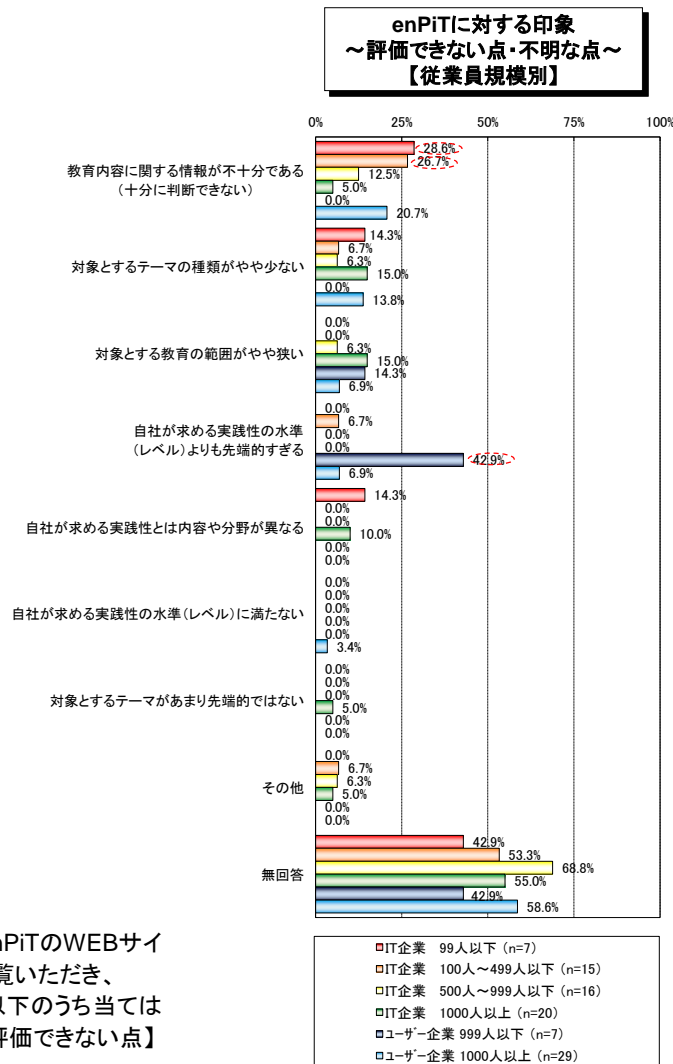
- enPiTに対する印象として評価できる点を、従業員規模別にみると、「チームによる開発が経験できる」、「課題の内容が本格的である」といった**教育内容の実践性は従業員規模の大きなIT企業ほど高く評価されている**。
- 創業年代別にみると、同じく「**チームによる開発が経験できる**」、「**これまでに大学教育では受けられない新しい教育である**」、「**課題の内容が本格的である**」、「**教育内容が先端的である**」といった**点は、伝統的な企業ほど高く評価されている傾向がみられる**。
- なお、**ユーザー企業のほうが「即戦力となる人材の育成に役立つ」と回答する傾向が高い**ことも注目される。

【問7】 同封のenPiTパンフレットまたはenPiTのWEBサイト (<http://www.enpit.jp/>) を簡単にご覧いただき、enPiTに対する貴殿の印象として、以下のうち当てはまるものをすべてお選びください。【評価できる点】



enPiTに対する印象 ～評価できない点・不明な点～ 【従業員規模別・創業年代別】

- enPiTに対する印象として評価できない点・不明な点を従業員規模別、創業年代別にみると、従業員規模別では、従業員規模の小さいIT企業ほど「教育内容に関する情報が不十分である」と回答した割合が高い。
- 創業年代別では、比較的新しいIT企業ほど「教育内容に関する情報が不十分である」と回答した割合が高い。
- また、**ユーザー企業では「自社が求める実践性の水準(レベル)が先端的すぎる」といった回答が多い。**



【問7】 同封のenPiTパンフレットまたはenPiTのWEBサイト (<http://www.enpit.jp/>) を簡単にご覧いただき、enPiTに対する貴殿の印象として、以下のうち当てはまるものをすべてお選びください。【評価できない点】

■ enPiT修了生は自社のニーズを満たせるか ／高等教育機関の実践教育に対する印象

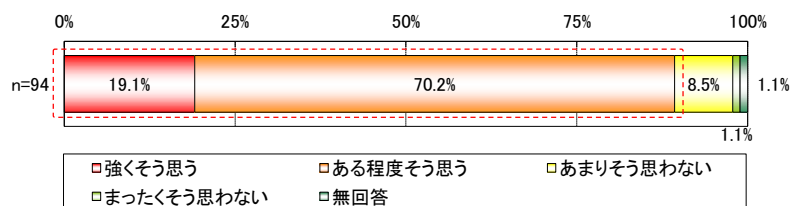
- enPiTの修了生が、自社のニーズ・期待を十分満たせるかという設問については、「強くそう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合が9割程度と、昨年度と同水準となり、**全体としては高い評価を受けている**といえる。
- 産学連携による実践教育のような高等教育機関の取り組みに対する印象としては、「高く評価できる」、「ある程度評価できる」と回答した割合が9割と、こちらも昨年度と同水準となり、**実践教育の取り組みについても企業側からも一定の評価を受けている**ことが分かる。

【問8】 enPiTプログラムの修了生は、貴社のニーズや期待を十分に満たせると思いますか。

【問9】 現在、enPiTでは、産学連携による実践教育を重視しています。高等教育機関におけるこうした取り組みについて、産業界の立場からどのように感じますか。

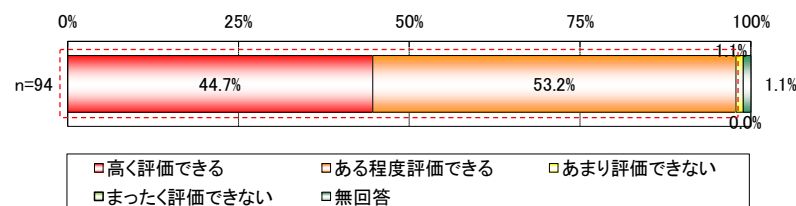
2015年度

enPiTの修了生は自社のニーズ・期待を十分満たせるか

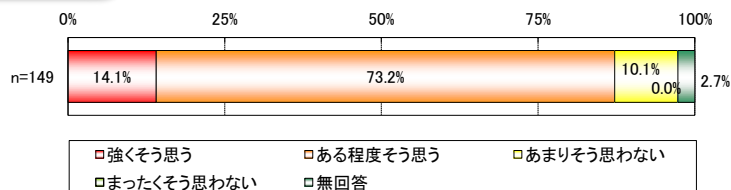


2015年度

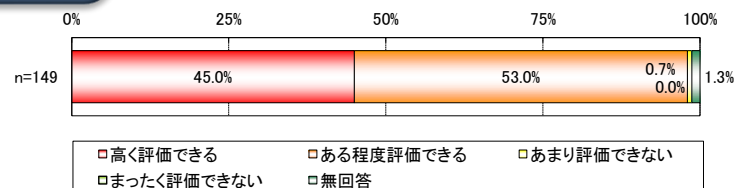
産学連携による実践教育のような高等教育機関における取り組みに対する印象



2014年度



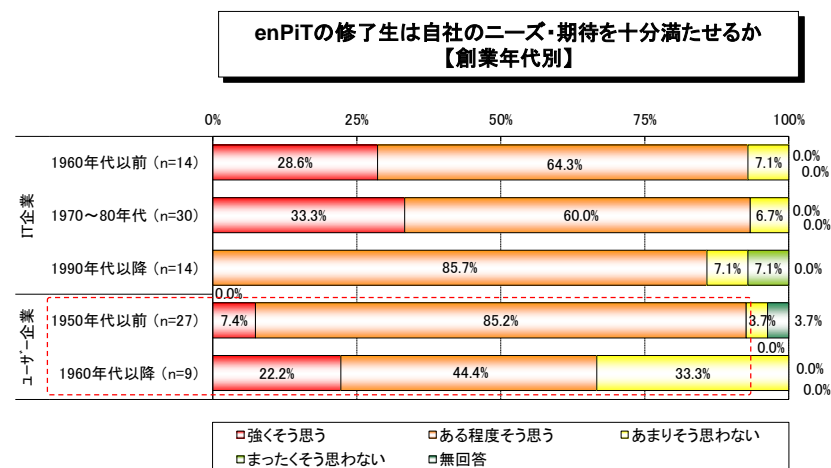
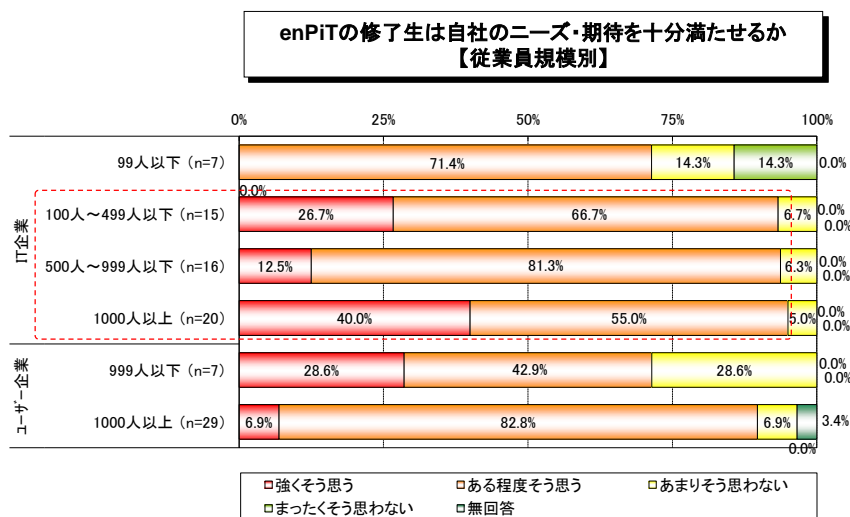
2014年度



enPiT修了生は自社のニーズを満たせるか【従業員規模別・創業年代別】

- enPiTの修了生はニーズ・期待を十分満たせるかという回答結果を、従業員規模別、創業年代別にみると、IT企業については、どちらかと言えば**従業員規模の大きい企業のほうが「強くそう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合が高い傾向**にある。
- 創業年代別にみると、創業年代の古い企業ほど、「強くそう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合が高い傾向がある。比較的新しい企業は、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」という回答が増える結果となっている。

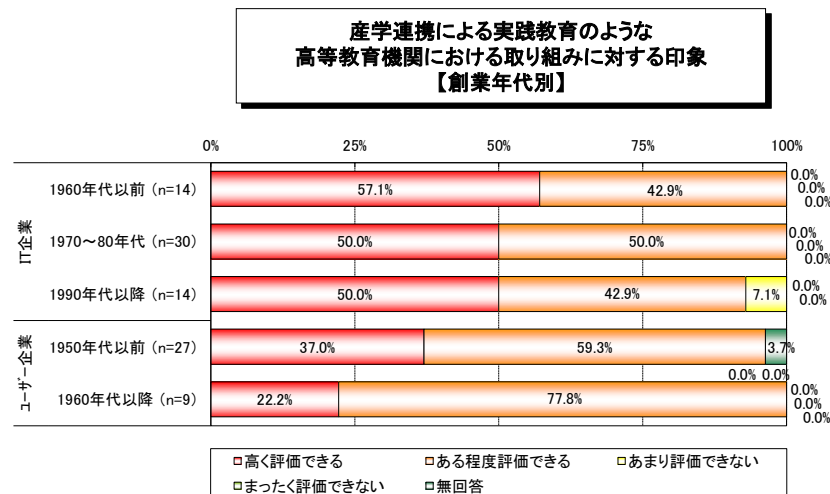
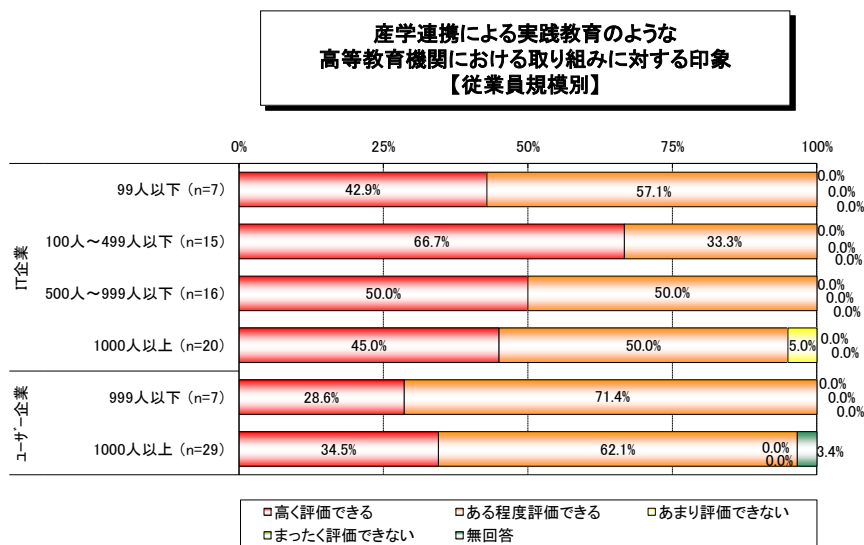
【問8】 enPiTプログラムの修了生は、貴社のニーズや期待を十分に満たせると思えますか。



■ 高等教育機関における実践教育の取り組みに対する印象 【従業員規模別・創業年代別】

- 高等教育機関における産学連携による実践教育の取り組みに対する印象を尋ねた結果を従業員規模別・創業年代別にみると、**どの区分においても「高く評価できる」、「ある程度評価できる」と回答した割合は9割を上回っている。**
- 創業年代別をみると、IT企業・ユーザー企業ともに、創業年代の古い企業ほど「高く評価できる」と回答した割合が高くなっている。

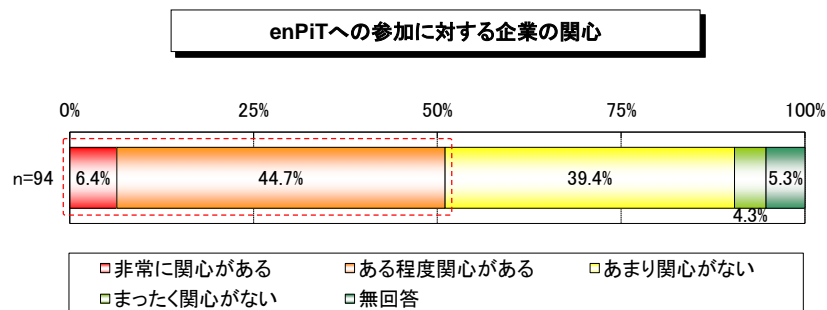
【問9】 現在、enPiTでは、産学連携による実践教育を重視しています。高等教育機関におけるこうした取り組みについて、産業界の立場からどのように感じますか。



■ enPiTへの参加に対する企業の関心

- 情報系の大学・大学院による実践教育への参加に対して企業として関心があるかどうかを、「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した割合をあわせて5割程度となった。
- 「ある程度関心がある」までをあわせると、**比較的多くの企業がenPiTへの参加に対して関心を有している**といえる。

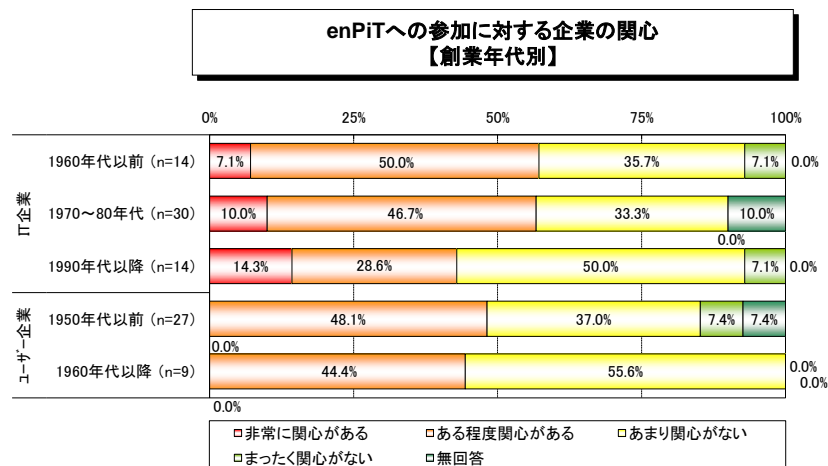
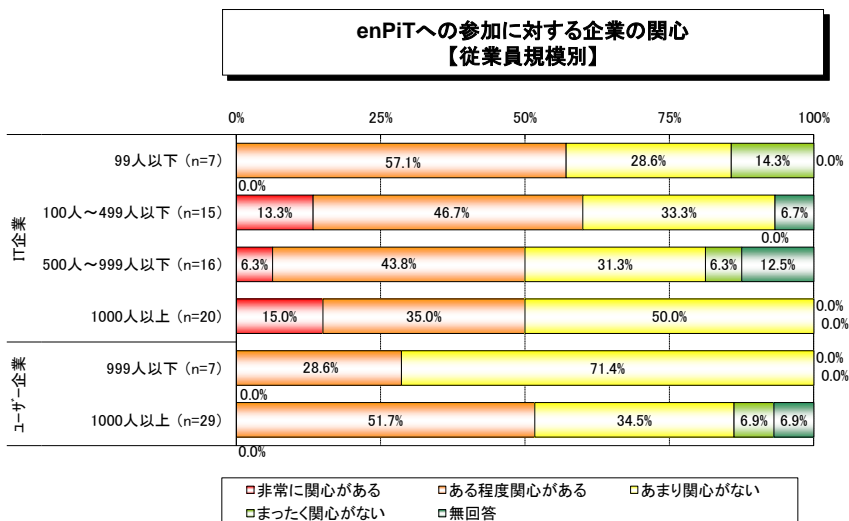
【問10】 enPiTでは、実践教育にご参加いただく企業様を随時募集しております。このような実践教育への参加（企業講師の派遣等）について貴社（貴殿）は、ご関心をお持ちですか。



enPiTへの参加に対する企業の関心【従業員規模別・創業年代別】

- enPiTへの参加に対する企業の関心を、従業員規模別、創業年代別にみると、従業員規模別では、IT企業のうち99人以下の区分を除く企業において、「非常に関心がある」と回答した企業が一部みられる。割合としては、**1,000人以上の企業において「非常に関心がある」という回答が最も多くなっている。**
- 創業年代別にみると、IT企業では、**創業年代の新しい企業ほど、「非常に関心がある」という回答が多い**という結果になっている。

【問10】 enPiTでは、実践教育にご参加いただく企業様を随時募集しております。このような実践教育への参加(企業講師の派遣等)について貴社(貴殿)は、ご関心をお持ちですか。



■ 情報系の大学・大学院及びenPiTに対するご意見・ご要望

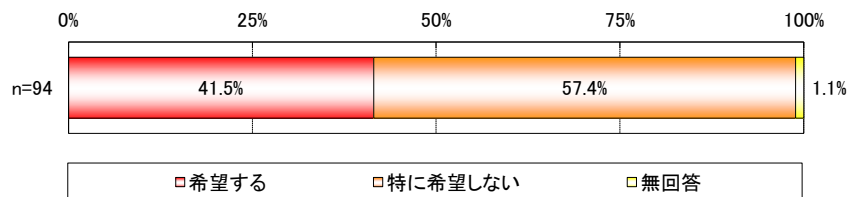
【問11】 情報系の大学・大学院の教育に対するご意見のほか、enPiTに対するご意見やご要望などがあれば、以下にご記入ください。

- チームで活動し結果を出す流れが理解できていると良い。
- enPiTで得た知識を周囲に伝播するコミュニケーション能力こそ重視している。
- 情報系も含め、技術系の学生はややコミュニケーションやプレゼン能力で劣る部分もみられると感じているので、当企画内で、そのような能力向上も図っていただきたい。
- 当社としては、実務的・即戦力を目指すような大学教育よりも、基礎や理論、学び方を学ぶような大学教育の在り方を望む。
- 日本に残るべき技術がミドルウェアであるのに、学校側の意識が薄い。
- 社員の再教育(先進技術の習得)を目的としたカリキュラムとそれを受講できる機会を増やして頂きたい。
- 著名な企業、東京都内の企業以外ともぜひ組んで授業を行っていただきたい。

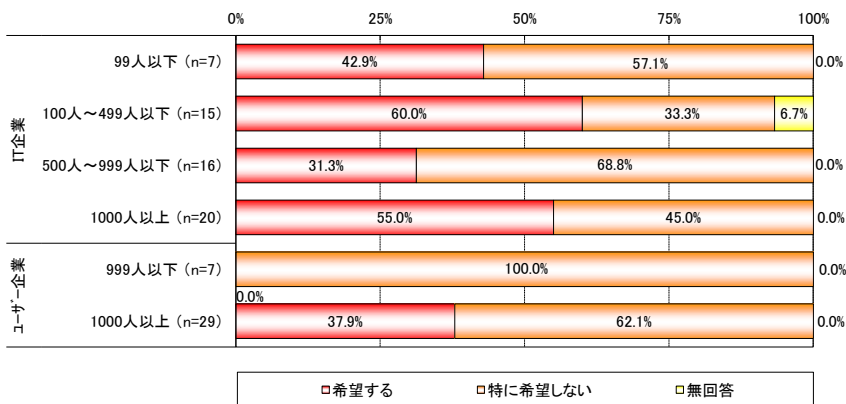
enPiTの案内送付の希望

【問12】 enPiTでは、シンポジウムや報告会等の一般公開行事を開催しておりますが、こうした行事の開催案内の送付を希望されますか。

enPiTの案内送付の希望



enPiTの案内送付の希望
【従業員規模別】



enPiTの案内送付の希望
【創業年代別】

